WASON
HQ
1
Oct. 1899
no. 498

明治三十二年十月二十五日

女學雜誌

第四百九十八號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百九十八號目次

◎社說
一代の花役者
廢娼論辯(公娼可滅。花柳病。土地繁昌。國家の不淨場。密賣者を如何んせん。何れか文明政府たる。公娼は公告なり。人身抵當。泥中の白蓮。曰く女學。曰く公娼

◎評論
生命保險の研究(布川靜淵)

◎女學
男女氣質(紫琴女)
女子の實業教育(無洗庵東根)
失戀の人に告ぐ(有美)
新に學校を起すものに告ぐ
女學校の方針及主義
女學生諸君への小忠告

◎雜錄
同人社小引
　社友書信一通
悲哀の人を慰むる辭(岩野泡鳴)
勝海舟先生高談
罰を熱海のさまよひ日記(惡魔の子)
日本貴婦人の洋裝(有美)
腰ふりの流行と袴と靴(同)
東京慈善演劇(同)

◎隨感
秋夜讀書○自恃言行錄より自由傳道

◎寄書
强盜竊盜火附の玉子(原胤昭)

◎時事
栃木縣遊廓增設令大反動運動
窒素的切支丹

社告

◎本誌は每月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す
◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾黨の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。
◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみと指定して所望せらるるものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

壹冊定價	拾錢
半年分定價	壹圓拾錢
一年分定價	貳圓

(內國無郵稅)

前金

代金は總て前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送すべくとも可有之事但し其節は總て一冊十錢の割にて計算し追て請求可致事是れ最に不本意乍ら計算の煩はしき不得止左樣仕候間かれて御承知置被下度候

廣告料

一行(廿二字詰)一回		前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

送金

送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし◎郵便切手にて送らるる人は總へて一割增にて計算せられたし

明治三十二年十月廿四日印刷
明治三十二年十月廿五日發行
發行兼編輯人　嚴本善治
印刷人　布川孫市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
(電話番町十九番)

エフ、エチ、バーチツト女史著

小公子

LITTLE LORD FAUNTLEROY
BY MRS F. H. BURNETT.

上製美本石版密畫十數葉入全一册定價金一圓廿五錢郵稅十錢並製クロース表紙美本定價金七十五錢郵稅八錢

「バーチツト」女史の筆は、流快にして眞に迫るを以て、其名泰西に鳴る、本書も亦女史の筆に成り、字々句々一として快ならざるはなく、穎悟なる小公子が、天眞爛熳にして無邪氣なる所作を、寫し得て極めて妙なり、英文學研究に最も適切なるの書なれば、師範學校、中學校、女學校等の教科書として最適當の良書なり、

發行所
東京神田區雉子町廿二番地　岡崎屋
東京神田區表神保町二番地　中西屋

耳科分院新設廣告

ドクトル 小此木信六郎

耳科分院 日本橋區住吉町三番地へッついがし
診察 午後一時より

小此木耳科院本院 本鄉元町水道橋外
本院診察 午前八時より

第九回耳科學講習會
十月二十日本院に於て開始

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

明治三十二年十月廿五日發兌

第四百九拾八號

社說

一代の花役者

枝頭の梅花を撚つて春の來れるを嗅ぎ、一葉梧桐の落るを拾つて秋の冷やかなるに覺る。同じく是れ花、同じく是れ葉、彼等別格の靈あるにあらずと雖ども、又能く『時』を代表するの故に、擧世俯仰人の感歎止まざる所以の者は、單に勢なるのみ。時來つて、百花爛熳、時去つて、千葉亂散せば、亦孰か梅花の香ぐわしきと梧桐の悲しきとに胸うたんや。勢一と度び去つて人頓かに忘れ、溺夢忽ち破れて自から昨我を笑ふ。今の賢こくして曩の愚かなるにはあらざるなり、只だ是れ『時』、唯だ是れ『勢』なればなり。

然りと雖ども、花に歌ひ、葉に歎つ、其人の地位依然として其花と葉とは否らず。前には擧世の題目たり、後には足下の塵芥なり。一と度びは賛歎吟詠せらる、忽ちにして委棄忘却せらる、何んぞ其の初めに光榮にして後に落莫たるや。但だ夫れ花葉自から識らず、獨り恨人をして爲に涙を灑がしむ。假りに若し人間をして此の花と此の葉とに代らしめよ、一世の浮沈、痛絶に堪ゆ。華榮、壯大なりける古城市の廢址に泣んとするもの、亦た奈何んぞ此の哀詩に斷腸の悲歎なきを得んや。

但だ學ぶ可きは彼の花と葉と是也。彼等無心にして開落す、一歲乃わち了れり。一歲乃わち了れりと雖ども、彼等は休まざるなり。春來り秋來りて彼等亦依然として先んず、一代の俯仰復たび起る、一世の感歎復たび起る、而して彼等は亦た忽ち忘却せらるゝとを嫌わざる也。嗚呼、花葉、無覺無私、こゝをもて久し、人間寧ろ之に及かざる乎。年々歲々、花斯の如し、歲々年々人同じきを得ず。人の草木に及かざる所以

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

のものは何ぞ。
試みに、當世の經過に鑑みて、一代好尙の推移に算ふべし。幾何の名流斷絕して、幾多の志士、空しく其の名を葬むられたる乎。其人、悄然として今尙ほ存す、其功、忘然として世皆な知らず。只だ濃情强記の人をして幾度か榮枯の太だしきに泣かしむ。之を一鄕一村に就て質せ、例證少なからじ。之を一市一縣に就て問へ、例證亦少なからじ。所云ゆる一代の花役者、天下耳目の注集せし若干の才人に就き之を考へなば、殷鑑歷々、掌紋を指ざすが如くならん。

此故に告ぐ、年少氣銳の士。只もし才人を以て自から許し、一代の好尙に乘じて、暫時の花役者たらんことを欲すとせば、蓋し方なきにあらず。巧みに時代精神の發動する所に察し、機に先んじて身を以て權現す。斯の如くして、其足跡に風波起り、其預言に洪水來り、大勢猛然として其の踵に接す。一代の眼を聳やかす所以知るべき也。

然りと雖ども、時に四時あり、勢の暫らくにして去來することを知らば、只だ單に之に乘じて一時の虛影を膨らませたるものゝ、亦忽まちにして收縮せんことは、素より明白なり。花役者が人氣の久しきに續かざる所以のもの、只此の理に由る。

左れど、此に二種の別あり。彼の能く人氣に投合せし、其の自から意識せると、せざるとの差別あり。意識せるものは、作爲なり、自から策つて投合せしむ。意識せざるものは、自然なり、自づから恰好の天分ありて偶たま此時に投合す。此の故に、顯現煥發する所は太はだ相似て、其由來する所、全たく異なる。作爲の久しきに存せず、存せずして而も嫌惡せらるゝ。自然の存するが如く亡するが如くして、而も好愛せらるゝ、亦一種の天則なり。彼の自から作爲せし花役者の棄らるゝ時や眞とに棄らる。彼の自然の花役者の忘れらるゝ時や、只だ一時のみ。此を以て告ぐ、花役者をして彼の花の如く開かしめよ、彼の葉の如く散らしめよ、開落もと無心なり、故に亦た再たび開落するの機に接せんことはする也。

嗚呼、自から策爲することなく、意識することなくして、一代の花役者となるものは、天分素より一世の雄なり。彼たとひ幾分の私心ありとも、亦十分の公心なくんば能はず。公心あり故に能く時勢を呼吸す。時勢を呼吸す、故に能く時務に於て慷慨し、時代に於て活動することを爲す。彼や必らず犧牲にす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る所のものあり、故に衆心自から惹かる。彼や必らず信守する所のものあり、故に天下識らずして倚らんとす。彼の呼吸は、一代の呼吸なり。其歌は万人の歌はんとする所、其涙は天下の灑がんとする所、其の能く自からにして斯の如くなる所以のもの、豈に天分の博大にして、禀質の多恨なるが故にあらずや。策爲せざる花役者は、素より一代の雄なり。

植物學者曰く、花は一國の好尚を代表す。牡丹を愛する者、薔薇を愛する者、山櫻花を愛するもの、各自に其の國粹を代言すと。日本人、由來花を愛す。異朝の詩人、灘波に此花を詠じてより、國歌の宗、山に櫻花を歌ひける迄、日本人の愛花、大變數回、小變其數を知らず、而も花の能く日本人を麗美ならしめたるもの幾何ぞや。嗚呼、吾人は一代の花役者あるを嫌はずして只だ切りに其の開落に寒心す。花役者よ、自然の花の如く咲け、自然の花の如く落ちよ。汝が造り花の如く後に棄らるゝを見るに忍びず。

試ろみに問はん、明治年代に入つて以後、花役者は、誰ぞと。吾人は、其大なるものにして、西郷南洲、勝海舟、大久保甲東、木戸松菊の如きあるを言はざるべし。其中なるものにして、三條實美、岩倉具視、伊藤博文、大隈重信、板垣退介、陸奥宗光、後藤象次郎の如き者を言わざるべし。只だ茲に一種別樣の詩的趣味を存して而も青年模倣の上に快活なる勢力ありしもの若干を列擧せんか。而して、其の既に土中に入りたるもの、若しくは今ま餘りに甚はだしく忘られたるものは言はず。又且つ、彼等の何人が自然の花役者にして、他の何人が策爲せし花役者たりしかを言はじ。只た聊さか開花の時節を叙して當年の春の景色を追懐せしめん歟。

◎朝野甚はだしく懸隔す。雲欝し、砂捲く。人皆な雲上を睨んで其の消息を窺がはんとする時、甚はだ華麗に、尤とも該博に、圓滑にして而して趣味ある辭令をもて其の秘密を辯護したるものありき。…………櫻痴福池源一郎君

◎束縛を過度に嫌ひ、自由を極端に慕ひ、國史を忘却し、革命に醉ひ、花の如く火の如くにして、血と叫びしに欣慕せし暫時の最極過激と、一部の多感青年とありき。即わち佛國革命說の大に浸入せし時。…………兆民中江篤介君

◎極端なる人權說を妨遏し、強者の權利に神聖の名を附し、威嚴壓制の國家の正理たり、利益たるとを主張す。辯護以

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

上の辯論を要せし時。…………天則加藤弘之君

◎青年の理想、新らしき國を望み、志士少こしく經綸に注意し、有爲愛國の文學未だ起らず、人心切りに渇して未だ其渇を知らざりし時、「經國美談」の名を以て志士國を興すの熱情を鼓動す。…………龍溪矢野文雄君

◎西洋の文明に根抵あり、根抵は基督教なり。西洋人に親しまざる可らず。親しまんには宗教を寛容せざる可らず。好むものは固より基督教の傳播に熱心し、好まざるものも其勢力に注意せざる可らず。先づ純粋に西洋的なる基督教の勢力の大に發揚し來らんとする時。…………新島襄君

◎藩閥打破せざる可らず、平民主義擴張せざる可らず、即はち國會の開かるゝに先ちて普通簡素世界的の主義大に行われざる可らず。人心暗に歸嚮せし時、華麗燦爛たる筆頭、西洋的趣味口調を溢らせ尤とも青年浮動の氣に投合す。情熱燃え、言花滿開す。…………蘇峯徳富猪一郎君

◎一向に狂奔せしもの稍や回顧し、一概に摸倣せし者少しく撰擇し、國史國性に鑑がみて初めて外國の文明を應用すべしと云ふ。國粋保存せざれば、國なきに等しと考がえ初めしもの、亦是れ外國一派の勢趣を知り、開化せし新らしき保守的の氣焰を擧るもの漸やく加はる。…矧川志賀重昂君

◎伊藤伯の勢力漸やく政府の中心點たり、諸伯之を繞つて遊行す。伊藤伯に縁故深きのみならず、政府の各器關を知悉し、百謗を顧りみず、無遠慮に干渉し、甚はだ執着強くして、極めて多才なるもの、政府の各器關相調和せんとし、官民の兩派相調和せんとする時、極めて切用ならずんばあらず。…………晨亭伊藤巳代治君

◎民黨合同す、就中、舊改進黨と舊自由黨とを中堅として、他の數派の民間黨合同し、而して初めて政黨内閣を組織せしに至る迄、豈に隱然衆心を繋ぎ、直截にして濃情なる調和者なくして堪えんや。…………木堂犬養毅君

◎人心倦めり、細巧連りなり、意思弱れり、鐵腕を欲す、假令ひ瑕瑾ありと云ふと雖ども、寧ろ蠻勇の英斷を望まんとする時。…………星亨君

嗚呼、是れ諸才人の品評にあらず。諸君の才、安くんぞ此に盡きたりと言わんや。然れども、諸君が名を成したる所以のものは即わち此にありき。之れ其の時勢なれば也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

知らず、此等の諸君、亦た他の時、他の事に於て再たび花さくや否や。吾人は之によつて其の品格を知らんと欲す。

廢娼論辨

栃木縣遊廓地新たに増加の事、豈に公言するに足るべき理由あるものならんや。大率ね、此般の事たゞ地價を暴騰せしめて一擧に大利を博せんとする投機心に外ならざる耳。況んや、之に連係して種々の怪聞を生ず、素と理論を用いて一々駁撃すべき價値あるものにあらず。然れども、試みに彼等をして一應の辭柄を作立するものたらしめ、假りに多少の論據あるものとなして之に對せんに、亦之れ論理上探るに足らざる也。左に、彼等が普通に主張せんとする諸種の論意に向つて一々簡短なる答辯を與えん。

○公娼可滅

今の廢娼論とは、先づ公娼の滅す可きを主張するなり。公娼滅せざる可らず、況んや新たに之を起すことをや。夫れ、明治政府初年の氣慨は、漸次之を滅せんことにありき、少なくとも斷じて之を増加せざらんことを方針となしき、而して今俄かに之を新設せんとする者の理由、何如ん。

○花柳病

或は曰く、公娼設置せざれば、花柳病蔓延すと。此論の誤まれる、喩えば彌よ火を熾んにして而して防火の術を施こすに似たり。公娼設置は、婬風を熾んにするものなり、婬風を熾んにして而して花柳病の蔓延を防がんとするは、何の謂ぞ。反つて問はん、若し公娼設置せざれば則わち悪病蔓延を防ぐの術なしとせば、國家の衛生は、全地到る所に之が設置を計らざる可らず。論者堂々此の主張を公言するの勇ある乎。

○土地繁昌

或は曰く、土地繁昌の爲に暫らく此究策を採ると。悲しい哉、眇の經濟家よ。腕を斷つて食ひ、血を流して飲み、歡呼して以て其肥えたることを祝する乎。好景氣、好融通、日夜去來の源家平氏に一ト時の榮華を咲せ、其の地頗ぶる繁盛を増せ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るが如くして、實は只だ騷ぐのみ。出入激しくして、殘餘少なく、生計奢りて貯蓄なく、少年は次第に堅固の家產を蕩盡しつゝ初むるのみ。凡そ、水、浮氣、投機の商賣に於て最后の富あるとなし。如斯き經濟によりて一地方を富まさんとするものは、遂に之れを枯らすもの也。何んぞ護鄉の精神に乏しき。

○國家の不淨場

或は曰く、一家尙ほ不淨場あり、國家も亦た掃溜場なかる可らずと。試みに論者の口調によりて問はん、然らば君、玄關を不淨場にし、應接間を掃溜場となす乎。今の妓樓は酒樓なり、茶屋なり、交際場なり。試ろみに問ふ、今の紳士諸君は、其不淨場たるものに於て飮食懽樂しつゝありや。

○密賣者を如何せん

或は曰く、公娼設置せざれば密賣者を如何んせんと。是れ二個の誤謬なり。公娼設置せらるれば淫風熾んなり、故に反つて密賣者を增す。既に强盜を許可せば、奈何んぞ窃盜を增さゞらんや。論者は、事實に於て公娼設置后反つて密賣者の增加せることを知らざる乎。且つ夫れ、假りに密賣者をして增加せしめたりとするも尙ほ公娼よりは優れり。公娼設置の既に惡病蔓延を防ぐに功なきことを知らば、密娼は寧ろ公娼に優るに非ずや。國家如何んぞ公娼を官許するの躰面あらん。もし二者を比較せば、寧ろ密娼を可とせん。密にするものは即はち制裁禁止に近ければ也、其の惡風感化の少なければ也。而して、假りに撿查を以て有効なりとするも密賣者に就て之を施こすの方なきにあらず。何んぞ之が爲に公娼とせざる可らざるの理あらんや。

○何れか文明政府たる

明治政府に於ける公娼は、德川政府に於けるよりも公然たり、亦數に於て大に增加したり。既に德川氏の時、即ち所云ゆる文明時代にあらざる時代に施こし得たる制裁は、今の文明政府に於て施こし得ざるや。維新以前の日本男子が自から制し得たる風儀は、今の新日本の男子が抑ゆること能わざるや。夫れ、國家の開進とは、何等の意義ぞ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○公娼は公告なり

政府たとひ悪事を絶滅し得ざるとも、之を減ずることに力めざる可らず。たとひ滅じ得ずとするも、増すことを爲すべからず。夫れ、公娼は公告なり、誘惑なり。妓樓宏壯にして、巍々たる大厦聳え、管絃湧き、紅紫翻めく。政府たるもの、如此き誘惑を公許し、其の白晝に人の子を墮落せしむる機關に保護を與ふべき理由ある乎。邪淫を犯すものに三あり、其慾既に膏肓に入るもの、一也。自から制せんとしつゝ而も誘はれ易きもの、二也。清白純潔の境界より初めて其慾に導びかるゝもの、三也。今夫れ、政府は、其第一を如何んともする能はずとするも、其第二第三を誘惑して彌よ悪徳を助長せしむべき機關を公許すべからず。公娼は即はち已むを得ざるものゝ爲にのみ存せず、反つて新らしき誘惑を發して彌よ清白の人を墜落せしむるの力あり。

○人身抵當

今の法律に於て素より人身抵當を許さず。彼の妓樓なるものは實際何等の組織ぞ。稱して貸座敷と云ふ、賣淫者醜業を爲すの貸席のみ。一朝娼婦其の業を醜なりと悔悟し、直ちに止めて妓樓を去らんとするは寧ろ自由ならずや。彼は其借用金の返濟の爲に訴えらるべき義務ありとするも、其醜業を續けざる可らざるが爲に訴えらるべき理由なけん。而して政府の警察官は、反つて之が拘留に加擔し、其醜業を續けよと諭す。人權保護、道義勸誘の實何處にありや。

○泥中の白蓮

憫れむべき娼婦よ、彼等に存外の佳人あり。彼等の中或は孝の爲に、もしくは貞の爲に、其身を賣りたるものあり。斯の如くして、可憐の美談あり、泥土白蓮の香に薫するを聞、則はち是れ多恨の士をして娼婦を憫れましめ、多情の士をして妓樓を悲しましむ。反つて公娼に一掬の涙を灑ぎ、其の悲哀に同情の感あらしむるもの、皆な素と政府公許の故にあらずや。若し公許せられざれば、孝女貞婦は如斯き地に身を落さじ。偶たま此廓に美談あらしむるもの即はち是れ彌よ佳人を毒する所以なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○曰く女學、曰く公娼

恐こくも　皇后陛下、女子教育に大御心を注がせ玉ふ。文部大臣亦、勅を承はりて大に文政擴進に力むと云い、曾て切りに訓示して大に女學を奬勵せり。豈圖らんや、男子錢を用ひて婦女を玩弄するの術を公許し、尚且つ保護し、尚且つ之を増加擴張せしめんとす。女子教育奬勵の實何處にある。日本婦人の地位を進めんとするの實何處にある。公娼設置は、女學の讐なり、公娼増加は女學の妨害なり。

附言

假りに公娼設置論者をして論據あらしめよ、而して採るに足らざると斯の如し。況んや彼の栃木縣増設の事の如き、毫も此般の理由だにあるなく、只だ連りに醜聞を發す。縣下正義の士、安くんぞ默視すべけんや。果然、足利勇愛義團の士、先づ起てり、他の同志雷應、到る所反響せり。今や恐るべく、感謝すべき有力多數の反抗者一齊に義憤せりと聞けば、頑冥なる當局も亦た愕然として警醒する所あるべきか。過は改たむるに憚る勿れ、吾人は有司の速かに悔悟して非を去る一日だに速かならんを祈る。

評論

生命保險の研究

布川靜淵

世に生命保險會社と稱するものあり、則ち保險契約者より受取りたる掛金を積み置きて被保險者中に死者ある時若くは被保險者契約の年齡に達したる時に於て其契約の金高を渡すを業となすもの是れなり、此種の會社近來諸方に勃興し大小凡そ百を以て數へんとす。頃日偶々明治生命保險會社第十八回報告（自明治三十一年七月十日至三十二年七月九日）を手にす、之を一覽するに事一會社に屬する些細統計表に過ぎざれども、此間に世態人情の一班を認むべきものあるが如し、依て試みに解説して同好の士に一讀を煩はさんとす。

◉契約金額と人員――契約金高は一百圓より五千圓迄にして、人員は總計四万〇七百八十四人あり、中に就て最も多き者を擧くれば左の如し。

一百圓	一万五千一百五十八人
二百圓	八千二百八十三人
五百圓	六千三百九十五人
三百圓	四千八百八十人
一千圓	三千六百三十七人

の五種にして、百圓より一千圓に至る契約者は三万九千六百三十九人の多きを占め、一千圓以上五千圓に至る契約者は、僅かに一千三百四十五人に過ぎず、知るべし、斯かる契約は最下級のものには解し難くして廣まらず、又死後若しくは養老等に關するが故に大資產家は多く意に介せず、結局中流社會の者に存するを。

且つ金額の數字を見れば、一、二、三、五等に關するもの多く、四、六、七、九等に關するもの少なし。前者は平生人の計算し易く概して好む所の數なるも、後者は之に反して計算し難きものなり、此等たる凡ての物價標定に關するとにして其計算し易きを以て自然に好むに至り、不知不識習慣となりて何事にも表はるゝものとす。蒸菓子一個五厘として四厘、六厘、七厘等にせず、煙草一包一錢七厘、二錢六厘等にせざる如く、金錢の計算は凡て其易き所に從ふを情とし、且つ五厘一錢二錢五錢等の定まれる貨幣あれば、相互に因緣となりて斯くは定まるものなり。一千圓以上の契約數を見るも二千圓、一千五百圓、二千五百圓、三千圓、五千圓と稱するもの多數を占めたるを以て尙ほ證すべし。

◎死亡と解約――解約とは一旦契約を結びたるものが、中途にして約を解く者なり、こは三ヶ年以上に涉りて三百圓を拂込むも、若し之を解約すれば三分の一即ち百圓位を戻さるゝを規定とす、万一三ヶ年に滿たずして解約すれば、掛金は一厘と雖も戻されざるなり、されば何人も解約せずして繼續すべき筈なるも實際は然らずして、實に左の結果を見るなり。

解約	二千八百六十七人
死亡	四百四十九人

されば解約は死亡の七倍餘に上りて是等は何れも掛金を全く損するか、然らざれば三百圓を掛けて僅かに百圓を取る種類にして、凡て契約者の損失となり、特に會社の利得となるものなり。一歩を進めて其金額を見よ、

解約者保險金	八十一万五千四百圓
死亡者保險金	十七万五千二百圓

之れ實に死亡者の八倍と見て可なり。解約者多きに從ひ金額多きは當然なり、但し八倍の金子は悉く會社の利得となるに非るも此割合より推すれば生命保險會社なるものが、如何に解約者多きか爲めに利得の大なるかを知るに足らん。死亡保險斯の如く少なくして解約斯の如く多く、且つは一年間領收すべき保險料は、五十万八千三百五十二圓餘ありと云へば、之を運轉して利子を收容す、會社の利益の多き知るべきなり。

◎保險と男女――被保險者の男女別を見るに、言ふまでもなく男に多くして女に少なし。

男	三万三千六百八十四人
女	七千百人

即ち男の女より多きと四●七餘にして殆んど五倍なり、蓋し男は戶主となりて一家の生計を維持するもの、其養老、死後の計畫をも爲すの責あり、女戶主は少なくして且つ男より後れて死亡する者多きは統計上實際上明かなり、故に男は妻子の始末を思ひやる情より斯く多きを致すなり、女にして入る者恐くは未亡人にして子あるもの、女戶主たるもの及び當節の事情に通じ夫妻共に契約するもの等に多かるべし。

◎拂込の種類――明治生命保險會社は、前金を以て一年分を收むるを規定となす、然るに實際は規定に依らずして特別法によるもの多し。即ち左の如し。

一年掛	九千五百十二人
半年掛	一万四千七百〇八人
三ヶ月掛	五千七百二十二人
月掛	九千八百九十九人

之に據りて見る、一年掛の規則を守れば、假令は三十歲の一年掛金は、二圓二十九錢なれども月掛けは每月二十一錢宛、一年二圓五十貳錢を收めざるべからず、此間二十三錢を損する者あるも、拂込みに別段の利子を附せらるゝに非れば一年二十三錢の損失は眼中におかず、其都度〳〵便宜に從ひて拂込むもの多き次第なり。一時に多額を拂込み得るの餘裕あるものは、斯かる契約を爲すと少なしと見ゆるなり。こは解約者の百圓より五百圓に至る間に大多數を占むるによりて更らに明かなり。

◎保險と年齡別――被保險者は年齡十五歲以上ならざるべからず、今四万七百八十四人の總計中より何れの年齡に多きやを見るに、三十歲より四十八歲迄にして、何れも千人以上なり、九百人以上は二十七歲より二十九歲及四十九歲より五十歲迄のものとす。されば二十七八より五十歲迄のもの殆んど大部を占め居るを知るべし。願ふに二十七歲以上に至らざれば一家の戶主となりて生計を立つるに至らず、書生、番頭、役人の何職たるを問はず、未だ年少氣鋭、前途多望の空想に滿さる、焉んぞ養老の計畫、死後の始末に頓着せんや、其若きものゝ入るは蓋

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

し父母の當世に通じ金錢の融通よきか、若しくは日雇官吏風のもの多かるべし。又五十年以上に至れば掛金も高く生存期も短し、此年に至りて始めて保險の必要を感ずるものも少なく、人生五十七十は古來稀にて、死亡するものも多し、爲めに五十年以上に進めば益々少數となるを知る也。

さらば死亡したる年齡如何と云ふに、昨年七月より本年七月に至る一年間に於て五十九年の人二十二名、七十年の人二十一名の死亡せる外、皆な二十人以下寧ろ平均十五人以下と云ふて可なり其十名内外の死亡者は三十二年以上六十二年まで、三十年間に多し、他は凡て十名以下なり、而して一年間總計四百四十九人のみ。死亡率は一國民の平均壽命より割出し來るものにて、今一會社の材を以て諭するは少しく不當なるも、大抵此の如きものと推して可なり。

◎保險と職業別……職業別は會社によりて大差あるを免れず、眞宗、日宗、明教、佛教等の冠名あるものは僧侶と其檀徒とを相手とするが故に其種類多く、愛國保險會社の如き醫師と菓子商との團結せる組織なれば、又其種の職業多きを致す。今ま普通にして能く各社會に及び、第一流にあるもの二三ある中、明治生命保險會社は隨一なり、依て之を例するもの多少の消息は伺ひ難きに非ず、千人以上の職業者別は左の如し。

商	一万一千六百六十六人
無職	五千〇七十二人
農	四千百六十七人
銀行會社員	三千八百〇二人
工	三千四百四十八人
雜業	二千六百七十二人
官吏	二千三百〇二人
教員	一千四百八十一人
醫師	一千三百二十四人
雇人	千二百二十七人

其他を合計して四万七百八十四人あり、前述せる如き會社の種類によりて異なる者あるも、今は此に表はれたる者に就て一言せんとす。商人は毎日金錢の融通よく、保險掛金の如きは之を無き者として出すの便あり、且つ彼等は利得を以て生命となすもの、多少の金よりも自利子を得る情は元落するも亦無きものとして僅かの掛金となし死後に大利を見んと欲せざるに非ず、之れ其多き所以乎。農業と稱する範圍は廣くして、彼等は商の如く融通宜しからざる種類なりと雖も、土着の念强く子孫をして永く其地に安住せしむるの情切なり、其の死後の心配は商人より厚からざる者なれども近來の農者は金利上にも觀念發達し來れる傾向あるなり。無職とは願ふに非役の官吏軍人及び華士族の人と知らる、公債證書の利子に食ひ終らんより多少を節して子弟の教育足り以て一本立ちとなるを樂むの輩若には無職なり、死後に遺すの計畫やながるべからず。銀行會社員は保險會社の役人等との關係よりも來るべく、又世襲業に非ざる點よりも來るべし、其他官吏、教員、醫師の如きは斯かる保險の性質を辨知し、將來を思ふの念割合に深き輩なり。然らば如何なるものが多く解約を爲すかを見るに、契約するもの多き業者は解約も亦多し、即ち右の掲げたるものは最も多數を占む、他は契約するもの少き丈け解約も亦少なし。割合に多きは、農、雇人、銀行會社員等にして、少なきは醫師、教員、海員、官吏等なり。顧ふに一昨年と昨年の不作は農民に影響を及ぼし同時に増租あり、増税あり爲めに解約者を增加したるの事實あるは明かなり。今日各保險會社が其恢復に力めつゝあるは、蓋し之が爲めなりとす。

凡そ保險の學理は、各國の死亡率、生計程度一般世間の經濟、其他子孫に對する情等、種々の方面より統計的に推究して始めて解すべきもの、此篇は一會社の報告によりて歸納したるに過ぎざれば太だ充足せざるものあるも、世態人情の一斑は何れに徵するも察し得べき一例として擧げたるに過ぎず、讀者之によりて生命保險の性質如何を推することを得ば、記者の望みは即ち足る。

北堂無レ老信來稀　十載秋風鴈自飛
今日滿頭生二白髮一　千山鄕路爲レ誰歸。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

男女氣質

紫琴女

○男心を秋の空といひ、女を水性なりともいふ、いづれまことに當れるやを知らず。されど男心の變り易きは、偏に新奇をめづる、浮れ心に出るのみにはあらで、始めを愼む事の、足らざるに因るにはあらぬか。いひ換れば、女に比らべては無邪氣に、愛を思ひ立つ事の、無造作なるに因るなる可し。是一つには節操の、婦人に重き男子に輕き、習慣あるにも因る可けれど、主には依賴心あると否らざるとに因り、是に強弱の差を生じ、是に注意の精粗となる。注意の精粗と、強弱の差は、男子をして秋の空の放縱に赴かしめ、しかも亦婦人を駈りて、水性の浮薄に陷らしむる、媒にあらざるか。試に論らはむ。一般に男子は婦人をたよりとするものにはあらねど、婦人は男子をたよりとするを免れず。さるからに弱者たり、しかも節操のおのれにのみ、重きを負へる婦人にありては、よく〳〵の無分別に非る以上、單に愛てふ榮耀の沙汰を以て、心を決す可きにはあらず、先づたよるものとしての方面よりも、徐に其人を觀察したる上ならでは、漫りに生涯を許す事ある可らず。是生涯を許せりといふは、直に生涯を托せりといふ意味に成替はる可きを以てなり。さるからに婦人は如何に愛に歩める時と雖も、一片意思の拘制を免れず。意思の拘制を免れ難き愛なるを以て、其觀察も、自然着實たり易し。着實なる觀察もて、其撰擇を鄭重にす。よし他日情の幻影は消え失する事あるも、意思に於て認めつるたよりの綱にして斷へざらむか、此一糸にだも全生涯を繫がるるは、婦人の運命に於ては、少しも珍らしからぬ事たるなり。さればたま〳〵水性の移り心ありといへるも、其は單に情に於てする移り心といふにはあらで、利害に伴ふ意思の背反なるが甚多し。利害に伴ふ意思の背反とは、男心の賴み難きに困じたる見限りか、降りては生活を托するに不安心と見定めたるなど、何れは危懼に出たる防禦の態度を誤りたるが甚多きは、いつも世間浮薄婦人の擧動に就て、見出し易き原因なる。是爭でか婦人の弱性と弱地位が、一方には德

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

美を扶けて、貞操の美をなさしめつゝも、他方には却て浮薄の醜に導き入る、媒にあらでやは。

されど男子の進退は全く否らず、德義の制裁寛なるを、今更にいはずもあれ、何れに彼方をおのが保護の下に置くべき優勢者なるを以て、はじめより婦人には、さして重きを置けるにはあらじ。劣者と覺悟しながらの從者を求めたる迄なれば、人を得ると否との如きも、婦人ほどの大事と思惟せるにはあらず、さるからに其撰擇も自然疎漏ならずとはいふ可らず。よし疎漏にはあらぬ迄も、是を求むる着眼に於て、既に婦人よりは一段寛やかなる、閑問題に屬せるを以て、其撰擇の標準も亦自ら浮華に流れずとはいふ可らず。浮華に流れ易き着眼もて、愼重の態度を缺き、しかも后日の遺棄心に任すべき、優勢の地位に居る、是其はじめより意思の拘制を免れて、兎角は情の赴く方に突進し、情の冷えては彼方の資格に何ものをも剩す所なき厄介を脊負込みし歎あり易き所以なる。斯くてその忍耐は、對手たる婦人に於てこそは、たよりと德義の双ながらに其要あれ、男子にありては、さして其要を覺えざる事にしあれば、寛なるながらの德義に問ふて、厄介を其儘に擱くと否とは自ら別問題に屬せるも、情は更に他の嗜好に可なるものに移りゆく、是男心に秋の空の名をとりし所以にして、しかも亦其秋は、女心の水性の、移ると見えて其多くは利害に去就せるものなる意思の動作には反して、是は只管情に任する浮雲の、故なくして彼處に散り、此所に集まる無意義の來去に比す可きぞ、兩者の相似て、其原因異なれる所以なる。是を以て、一男子の一婦人に飽けりといふは、未だ其最後の嫌忌を意味するものにあらぬには反して、一婦人の一男子を見限りたりといふは、其最終までを見限りたるが甚多し。是爭でか一は同時に二人を有し得るの習慣あるも、他は否らざる德義上の拘束にのみ依る可けむ。半面の理由は、情に動きたると、意思に決せる輕重精粗の差異あるを以て彼の決心は容易に飜す可らざる固執たるに反し、是は飄々たる氣躰の、如何樣にも融通は利く所以なる可し。さあれ個は是いづれも其天性に基けるものなるか、あらず。猶且子細に此問題を研究せむとならば、試に男女强弱の地位を顚倒したる人に就ても見る可き事なる。

扨は千變万化の秋の空、必しも男子の天性ならず、押され

て流るゝ水性が必しも婦人の特質ならず、一は強者の力を恃んで放肆なるのみ、他は弱者のたよりを求めて彷徨するなり。何れ淺間しからぬにはあらぬも、斯く淺間しき結果を生せしめつる强弱の差の、何によりて甚しきかといへば、自活力の有無に關するもの亦尠からざる可し。

されぱまこと夫婦の契りを神聖なるものに、誇らず依らぬ中和を得せしめ、一方には男子の放肆を控制すると同時に、他方に婦人の薄情を遏めしめむには、婦人にも亦相當の自活力を具へしむるが、洵に必須の事とぞ思はる、さあらむには如何に是を遇するも、去る事を得せじとの侮蔑を防ぎ、夫が妻に對する態度も亦、自ら愼重に、妻も夫をたよりとしての利己に就き、たよりなしとしての利己に離るゝ弱點を防ぎ、是に夫婦の間柄を全く純潔のものたらしむる目的の半は成就せらる可きにや、風敎家の一顧をも煩はしたし。

○しやんとした男ほど、自分のする事に妻の口出すはいやがるものなり、されど是は如何にと諮かられての返答も出來ぬほど意氣地なき女にては氣に入らず。根はしやんとして居ての表面は何處迄も優しき女ぞいつも男らしき男の御意には召す女なる。

されどかゝる御夫婦の御機嫌美麗しき時は、人眼も羨む情交はあるものなれど、根がしやんとして居る女の、嗜みも事にこそよる一生の間には、どんな地金が出ずとも限らず、其時こそは二人共に強き同士の爭ひなど、少しは世間へ鋒芒の顯れずともいひがたし、此處お二方共に御用愼ぞ肝要なる。

夫れに比らべては我儘女子の男らしからぬ男には、折合も付くものにはある、さる代りには女房天下の、夫れはいつも御無事なり、但世間は何と申て居るか、其邊は御請合申上がたし。

是は是でのまだしもは、至て男らしき夫の、しよげ過たる妻持ちたる、はじめは夫のさして喜ばぬやうにはあれど、月日經つ内には、思の外の不憫加はりて、是こそは生涯安穩、行末めでたき御夫婦なる可し。

其處で何よりも困難なるは、善くいふてのしつかりもの、惡くいはゞ情のこわき女の持つて行き處なる可し。かゝる御婦人には氣骨なき殿御は頓と御意に召さず、氣骨あるは前にいひし衝突の恐れあり、でも何れかといへば、先づ衝突はなさ

らぬ積りの、氣骨ある方にとてお嫁しなさるゝ、夫れはよけれど、昔の人のいひ置きけむ、明けの旦の其積りが、いつ迄續くものにはあらず、こなたよりは違へねど、あなたよりとか何とか角とか、よし衝突の勿躰は付くにせよ、あたられてあたつたは、此方〻覺えある角の、五本十本折て挫ぎて、心を綿にした積りの、飽までなくては治らぬ、末のみじめを見るよりは、まだも初手から其方へ割安を仰がれての女君主にもお越なさるゝか、夫れも流石と思召す程ならば、先づ日本にはなき縁とおあきらめは强情ものゝ、獨身生活ぞ好かる可き。何れ三ッの外にはあらじと、誰も自分は温和しきつもりの、其一人などいひ出むには、左こそ可笑しき事なる可しと、我は知らね誰やらが申されぬ。

女子の實業教育

無識庵東根

凡そ婦人の社會的位地を高めんと欲せば、之をして獨立自活するの能力を開發せしむるに及くはあらじ。男女は共に依托して生存するものなれば、婦人が實力相當の位置を得、三界家なしと云ふが如き陋習を脱却して、男子と共に正當に生存せんには、必ずや先づ平身低頭終生只た寄生するか如き觀あらしめさるを要するなり。啻に之に止まらず、夫々の職業に應じて子女を敎育し、家政の紊亂を防ぎ、日常の生活をして安全ならしめんには、各其家業に關する一通の知識を有すべきは當然なり、必ずしも孤立して生活を營み若しくは未亡人となりたる時の用心としてのみ心得べきとに非ず、平時に於て家業に與かる者として必要なるを見るなり。

頃日、全國商業學校、工業學校及び農業學校の校長會議ありて、各其敎育上に關する議論ありけるが、中に女子の實業敎育に屬する一項あり。則ち文部省は右會議に向つて左の如き諮問を發したり。

女子の商業敎育に關する施設は如何なる程度組織を以て最適當とすべきか。

女子の商業敎育に就きては未だ何等の施設なしと雖も或る程度に於て斯敎育を普及せしむるは頗る必要の事たるべし而して其程度組織に付きて男子と全く同一に爲し難き事情あるべきを以て其最適當とする施設に關し各員の意見を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

問ふ。文部省は農業に就ても右と同一意義にて諮問する所ありたり、兎に角此の如き問題に着眼せるは賀すべき事と云ふべし。

第一、女子の商業教育

文部省の諮問に對し、全國商業學校長會議の可決したる所によれば、左の如し。

入學程度は高等小學第二學年修業以上の者

修業年限は二ヶ年乃至三ヶ年とす

當分の内高等女學校又は高等小學校内に附設することを得

學科は修身、讀書、習字、作文、算術、簿記、商事要議

家事經濟、裁縫及躰操の九學科とす

但し本科目の外他の科目を便宜加設することを得

之に據れば名は女子商業教育と稱するも、高等小學四年の内二年を修業して更らに二年若しくば三年にて修業する者なれば、高等科全部卒業生と異なる所は僅かに簿記、商事要義等の數科に過ぎず、余輩の見によれば、高等小學二年以上修業せる外、商業教育の修業年限は斷然三ヶ年と定め、更らに學科の中に、商業地理、商品鑑定法、及商法一斑等を加ふるの要あり、算術の中には算盤を加ふべく、修身には専ら商業道德を開發せしむることを期せざるべからず。

已に商業と云ふ、其種類や千差萬別なり、されば學科としては万人に普通なるものを限らざるべからず、然れども女子の商業上に於て殊に注意すべきものあるが如し。

第一は、婦人の商業上に於ける從來の缺點を矯正する事とは商業道德に關する者從來の缺點とは何ぞや、婦人は概して規則的なり、且つ主婦の位地に在るも自ら立つて商品を自由にすること能はざれば、懸引きすること拙劣なり、今日多少安直に賣買するも他日之を埋合せんとすることなく、引なしとあれば一厘錢も引かず頑固に云ひ張りて客の意を損することあり、蓋し小心にして將來の計畫なきによる、其斯に至らしめし所以は、獨立的思想乏しく唯命之を奉ずるの習慣より來る也。主人に至つては金錢の融通より一切の事を司るが故に多額の賣買を爲す時に於ては、多少の損失あるも一時大金の入るを以て之を流用して更らに他品を購求する等の事情あれば凡て自由に處置することを得るなり。吾人の經驗に徴すれ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

は、婦人の取扱へる時は決して負ると云となし、米、酒、醬油の類にても斗升の法嚴重に過ぎて少しも愛嬌的に負る如きとあるを見ず、故に買客は主婦の出るあらば、厭味を感ずるを通例とす。こは各地方に通じたる缺點にして、之を矯正せんには商店は正札附の引なしと決定するか、然らされば婦人をして多少自由に處置するの權を與へざるべからず。蓋し各地方共に家長の權專らにして婦人は財產の自由なき爲め、多少の小遣錢を得んとするの念より、少しく高く賣り附けて其釣錢を貯ふるが如き弊の致す所、遂に習慣となりて一般に小心ならしめ、懸引上に拙なきを致せるなり。此弊は商業道德上に於て大に敎訓するの要あるべし、又家に在りては家長獨り財產を自由にせず、互に共同して之に與からしめば此弊直ちに排除せられんなり。

第二は、實地練習の事なり、是れ學校に於ては稍困難の業なるも、勸工場、商品陳列所等あれば此に導き、是等の設置なき地方に於ては大商店に導きて商品の鑑定法を養はさるべからず。尤も其業に從へば暫らくにして品物の產地より形狀、性質、強弱、持續年限等を知ると容易なるも、學校に於ても實際的練習と鑑定の眼識を備えしむるの要あり、又英語の簡單なる會話位は課せざるべからず。

要之、女子の商業敎育は道德上に於て第一に注意し、實際の眼識を備えしむるなり、從來の習俗より推すに、婦人の買客多き種類、假令ば呉服屋の如き番頭には同性の婦人は適せずして、男子の買客多き種類には最も良く適するが如し。

第二、女子農業敎育

文部省は全國の農業學校長會議に向つて、女子の農業敎育に關する諮問を爲し、同會議は之を必要と認めて原案を可決したり。其如何に決せしや今不明に屬するも、前項規定と大差なきか如しと云ふ。

若し高等小學二學年修業以上として、前記せる商業敎育制度にありとすれば、甚だ簡單なるものと云ふべく、農業敎育として如何なる効果ありや疑はしきものなり。余輩の見によれば女子の農業敎育は、讀書、算術、作文等の普通科は勿論として、左の如き性質のものを敎ゆべきものと信ず。

園藝(庖厨的と市場的)養蠶法(養蜂等を含む)養魚法(肉

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

用、愛翫用）果樹栽培法（柑類、苹果）果樹園藝、栽桑法、種植（竹、菊、茶、工藝作物）農業有害昆虫、家畜（重もに家雞）家政學

右の如き科目を専門的に教ゆるは素より不當なるも、農業の中に於て最も婦人に適せるものは右の種類に限ると稱して可なり。之を敎育するに當りて注意すべき件は左の如し。

第一は、女子の躰力を消耗するに劇しくして腕、肩、腰等に力を要すること大なるは農業なり、孤獨にして社交心の開發に便なく無言にして交際狹少なるは農家なり、されば田舍の女子は都會の女子に比して早衰するは事實なり。故に農業敎育と云ふも力量を勞する過度なる性質の業務は之を敎ゆるの必要なく、且つ實際之に當らしむべきものに非ず、從來の習俗に顧みて、養蠶、栽桑、茶、一般の果樹、苗木養成等、右に記したる如き種類のものに關する知識を與へさるべからず。

第二は、普通農學校の如く、試作場を設くるの要あり、此に果樹を栽培し、桑茶を植え、又家鷄を養ひ、園藝術をも試ましむ、今の農業敎育には此種の設置なきに非るも、之を卒業して實際の改良に從ふことをせず、直ちに他校の敎師となるの

心掛けのみなれば、學科多きに過ぎて實際に用なく、書冊の裡に出入する農學者のみ多し、女子農業敎育に於ては斯の如き弊を脱して、婦人には家政を司る傍ら、家僕を指揮し、田畑を檢分し、屋敷地に於ける作物を栽培する上に於て、實際の知識あらしめさるべからず。之を爲さんとせば校內又は他所に生徒をして過度の勞力なくして栽培を試ましむる個所を設け、校內には幾多の標本を備ふるを要す。

若し此種の實際智識をして婦人に有せしめば、夏日遠く野外に出で耕作する如き、月を蹈んで至り、星を戴いて歸るが如き、重き鍬鋤を手にして耕耘する如き、凡て腕と肩と腰とを過勞する業は之を男子に讓りて、婦人は其心身の能力に適せる業に就き、分業自ら定まるべし、今日は唯從來の習慣に從ひて、多少の事業あるも尙ほ身躰を過勞する業に從ふもの多し、之れ婦人に適せる側面の實際知識なきが爲めならずや。惟ふに此種の事業行はるれば妙齡の男女野外に手を携ふるの要なく、多忙の爲め家庭敎育を怠り、子女をして終日子守に背負はしむるの要なく、風俗上、家政上、少なからざる便利あるべし、農業は概して分業少なき者なれども、女子を

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

して右の種類の知識を得せしめは分業自らにして整然たるに至るは明かなり、學校教育は必ず此邊に着眼することを要すと信ず。

第三、女子工業教育

女子の工業教育に就ては、工業學校々長會議に於て如何なる論議ありしや、又文部省よりの諮問ありしや否や、之を審かにせず、然れども婦人の實業教育をして完全せしめんには、農商と共に工業教育を備えさるべからず、然らされば恰も鼎の一足を欠くか如けん。願ふに女子工業教育とは、工藝教育といふの適當なるに若かず。

本邦に於て婦人教育中、最とも開けて且つ廣きは手藝教育なるべし、今日の程度に於て手藝以上に達せしむるの要あるは素より言を俟たす。特に工藝の教育上に一大進歩を望まさるべからず、從來の習俗に於て、衣服裁縫を始め機織物、刺繍、紡績、造花、編物等總じて衣類に屬する者は、殆んと全く婦人の手に成れり。されば一國藝術の進歩と婦人とは到底離るべからざる關係存するなり、故に女子の工藝教育は左の如き種類を重もとすべし。

機、刺繍、裁縫、編物 其他普通學科

工藝教育は美術教育と相俟つもの、之に通達せしめんとせば先づ美育を施さゝるべからず、婦人は緻密なる工藝、鮮麗なる藝術に適するものなれば、從來の習俗に顧みて其特長を發達せしめざるべからず。之に就て一二の注意すべきことあり。

第一は、今日の工場組織なり、彼の製造所、及紡績工場等の會社組織に入るものは、凡て分業を擔任し、機械の一部分となりて勞働するに至る、此に勞働する者例ば紡績職工の如き男一人あれば女四人餘の割合にして婦人の勞働者甚だ多數なり。又此に入るものは或る一種の分業に熟達するも、之より出てたる後ちは不具者と異ならず、故に一旦會社に入りしものは、他に職業を知らざれば生活に困難なる事情あり。自今益々工業隆んなる際、此に出入する女工の將來は、宜しく考一考しおくの要あり。

第二、今の工藝教育、例へば女子職業學校風のものは、家內工業として行はるゝもの、今日未だ家內工業衰へたるに非ず如何に製造所、會社等の組織行はるとも、倘ほ廢止せられざ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るは、婦人の工藝に關する部面なり。よりて女子自活の道として斯教育は益々發達せしむべき者とす。

之を要するに、女子實業教育は、男女の分業をして益々整頓せしめ、各其能力に適せしむる者なり、婦人の自活を資け權利を擴張し趣味を多大ならしむるものなり、藝娼妓醜業婦始め人の妾となり玩弄物となりて頤使せらるゝの恥辱を蒙らざらしむるの便法なり、大觀すれば人類として正に生存すべき道を知らしむるもの也。之を男子と同一課程にすべからざる點は、唯其心身の能力と婦人たる天職とに背かざる種類を撰擇するにあるのみ、こは從來の習俗に顧み、現今の狀態に徹すれば足る、吾人は學問教育と共に私立の女子實業學校の益々増設せられんことを希望して止まざる者なり。(十三日認)

失戀の人に告ぐ

有美

傷あり、肉を切り血を流し、痛辛まことに堪え難し。患ふるもの自ら以爲らく、この苦しみ夫れ長久に盡くるなからんかと。而して、幾何時ならざるに、生々の氣うちに動きて、新らしき血と肉とを送り、傷痍の痕消えて苦惱頓に去れば、さきの日の悶絶は、杳乎として夢の如くにそれ淡し。戀に破れたるものも、又凡て此くの如し。その始めや針を呑むよりも苦しく、其終りやまことに夢に似たり。

嗚呼戀の破れや、五年十年にして之を顧れば、眞に夢に似たる哉。されど、該の時、これを夢の如く消え去る能ふべしと思はざるも、また失戀の苦しみならんめれ。この病ひを患ふるもの皆な曰く、痛恨腸を斷たんかと。然りと雖ども、物窮れば即ち通ず。是れ天地の大法なり。大慈の皇天、豈に人生の一些事に過ぎざるこの破傷の故を以て、尊とき一代を塵に歸せしめんや。傷は療え肉は隆られざるべからず。悲しむべく又憐むべきは、この慈恩の大法に濶達する能はずして、頑狂自ら悦び、性の自然を矯めて、好んで滅落に入らんとするものならんかな。

失戀の人は、喩えば玩具の握れるを奪れたる赤子の如く、其悲鳴、情けあるもの、殆んど聽くに堪えざるところなり。我が戀人は去れり、我が情人は逸せり、我が戀は破れたりと、歎き悲しみ甚たく憂ふるの聲、まことにラヽに聞ふべし。傍

の人、ために煩ふこと多く、偏に其徹諦を希ふや切なり。而して、彼れの迷ひや益々深く、彼れの悩みや愈々盛んならんとす。或は曰く決然として童貞獨棲に安んぜんか、或は曰く、猛然として自ら命を絶ち君に殉せんかと、學を廢するものあり、業を怠るものあり。蓋し愚に近からずとせんや。かの怪しき情死に浮名を流し、漫りに道を過まりて一身を亡ぼすものゝ如きは、この恐ろしき惑迷に入りて、遂に浮ぶ能はざりしものなり。

されど、天は樞機の旋轉を人の心にゆるして、消えざるに消し、生れざるに生し給ふ。是を以て、天來一たび胸底に動き、『時間の神』手を擧げて之を祝福すれば、死にしもの遂に死にしものを葬り、舊き煩惱執着何れにか其影を隱くして、忽焉古へを忘れ去るに至り、翻然として新らしき戀に悦ぶなり。これを薄情輕浮なりとして退くる者の如きは、邪まなる道學先生のことにして、移氣は寧ろ『自然』の大慈悲ど知らずや。茲に小童玩具を奪れて暫く泣くも、新たに又與へらるゝものあれば、更に嬉々としてさきの涙を忘れたるに似たり。之れを人性の本然とす。

戀に破れたる善男と善女たちよ。其苦しみは長久に續くべき者に非ず。されば、其身を『時間』に任せて、泣く者は泣き、歌ふ者は歌ひ、靜に期の充るを待べし。一歳を出でずして心機自らに一轉せん。頑迷この一轉期を待つ能はず、早く既に無分別の行ある者、或は又自ら曲て其一轉を忌まんとする者の如きは、共に天地の大法に逆る者なれ。殊に失戀のうち、一大秘義を宿し、一度その苦惱煩悶を味へば、不可思議の功德ありて、人生人情の機微を靈覺し、濶然として大悟し確然として能く明察すべし。一歳の病辛の如きは素より償ふて猶ほ餘りあるなり。されば、失戀は是れ人生の呪咀ならずして寧ろ却て其頌すべき者なりと知る。嗚呼、失戀の女は惠ぐまれたる善き女也。失戀の男は祝せられたる善き男也。共に『自然』の源なる我が善神に拜謝せずして可ならんや。

新に學校を起す者に告ぐ

新たに學校を起す者よ。仔細に前鑑に面して、忠實に顧慮し、質朴なる見地より思ひ立てゝ、事の實際の結果に思案し、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

以て滔々汎々たる輕薄事業を起すと一様なる時弊に陥いることある莫れ。

校舎盛んに建てられ、廣告連りに吹聽せられ、以て多數の來學者を得たらば、之を教育者としての成効と云ふべき乎。須からく、事の實際の結果に看るべし。

凡そ我一己の力量として、其の來學者に應接し得べき區域は自から限りあり、決して多々益々辨ずるものにはあらざるなり。もし嚴かに且つ温たかに其の責任を感ずる時は、教育者たる我が義務と力量とを相應に果し得べき區域は、數に於て至つて少なきもの也。仔細に學生の性情を覺了し、銘々に適當せる活ける教導を與へ、且つ其の一生の方向に尤とも利益ある進歩の習慣を色づけ置んとするには、一個の教育者として施こし得べき區域の甚はだ狹きこと當然に非ずや。

然るに彼教育者、尋常世俗の事業に同化して、只管ら、數の多きことと、構えの大なることを望み、初めより分外の規摸を設けて、一時に人目を驚ろかすの結構を主意とす。たとい若し此の事にして成れりとするも、彼教育者は、之よりして其の設備の維持と、機關の運轉とに苦慮して、殆んど親しく其の學生に接する暇なく、況んや其の個々の需要に對して更らに知ることなく、單に一事務家として畢らんとす。夫れ、一事務家として畢る必らずしも不可なしと雖ども、彼が初念の期望に對して之を言はば、寧ろ遺憾にあらずや。彼は、空大の希望を立てたるが故に、小實の結果すら無きものとなれり。豈に誤まれるならずや。

此時に至りて假りに飜つて思はしめよ。もし一時に教育する所の學生の數、彼が力量相應の數にして、即わち二三十名、もしくは七八十名、彼が親炙し直接し切教し得る程の人數にして懇篤十分に訓化することを得、每年斯の如くして二十年四十年六十年と期し得たる最後の結果に就て計算せしめよ。如何に其結果の堅實にして十分なりしかに念ひ到らんとす。則はち初めより其多きを求めたるものは、後に至りて反つて其の結果の存外に少なかりしことに氣付くの日あるべし。

但し今の教育方は古の教育方に異なる。即はち單に我一人之を教ゆるにあらず、幾多の同志同助者、學校なる一機關の下に共同し、書生を抱集して之を教育するものなれば、其引受け得べき來學者の數の多からんことは勿論なり。然り、其の數

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の個人として引受け得べき數よりも多からんとは勿論なりと雖ども、之に亦た限りあるとを忘る可らず。即わち其一學校の同學者が、相合して個人性の生命を取り、殆んど一學校一機關の活動力を以て其の來學者に對し得るを限度となし、之より以上決して多數多量の來學者を求むべからず。而して、一學校の同助者を結合して、如此き調和生命あらしむるは亦た容易の事にあらず、或る時は殆んど不可能の事に屬するものあるとを思ふ時は、學校なるが故に多數の學生を引受け得べしと信ずるは、眞に敎育を知らざるものと云ふべし。

凡そ、敎育の道に苦心して多年の實驗を重ね、空疎の自負心を廢して、自己反省の本領に反り、「質實堅固の結果を旨として我分相應の敎育如何んと慮ばかるものは、必らずや、其の擔當し得べき學生の數の極めて少なかるべきとに謙思せざるはあらじ。然るに、初めより只だ一概に校舍設備の壯大を望んで他に存意の無きが如き、其の理想の低くゝ、其の經驗の淺きを證すると共もに、他日必らずや昔日の空疎大に恥ぢ、意はざりき浮きたる騷ぎに長年月を費やして、淺墓なる敎育に日を費せしとの殘り惜しきに憾まんとはすらん。苟くも一度び此の經驗せるものは、今の新たに學校を起さんとする君子に言ふ所あらんとすれど、而も其趣旨の容易に貫徹せざるは何故ぞ。

女學の方針及主義

動もすれば、女學の方針及び主義などと論ずるものあり。甚はだしきは、此の方針及び主義未だ定まらずなどと公言するものあり。殆んど其の意味を解しがたし。大凡そ何等の事を目的に斯く言ふやらん、漠として取とめなし。

假りに、男子敎育の方針及び主義と言ふとを題目として、其の意味の畧ぼ何事を言ふぞと考ふべし、男子の敎育に種々の別あり、普通敎育か、專門敎育か、普通としては專門のうちの如何なる程度、如何なる種類か。凡そ其品決して一ならざるに、直ちに概括して「男子敎育の方針如何」と云ふとを得るや。主義と云ふも亦た斯の如し。世界主義、國家主義、個人主義、利他主義、利己主義など、さまぐ\に稱する主義はありと雖ども、凡そ男子の敎育を或る一種の主義に限りて普ね

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に施こし得べしと云ふ主義ありや。頑冥者にあらざれば、決して斯る偏局不靈の言を立てじ。

左れば、男子教育に於てすら、其の方針、其の主義として、常に一定して論ずべきもの未だ曾て有ることなし。女子教育に於て獨り此の事あらんと云ふは、何等の理由ぞ。此の事あらんと思ふだに、既に可笑しきに、未だ此の方針と主義との定まらざるに先づ教育せんとすと言ふに至ては、更に何事の謂ひぞや。

女子をトコロテンの如くに思ひ、男子教育者の好むまゝに突き出し、勝手に料理するとの出來るものと考ふる族あり。則わち、方針又は主義などゝ云ふものを豫かじめ一定して、此の鑄型の儘に女子を製造せんと欲する也。

如斯き輩儕、先づ試ろみに自から問ふべし。我一生の方針と主義とは如何なるものぞと、而して、其の所云ゆる方針と主義とに我が能く實地適合せるや否やを、自から考へ、更に其の自からの主義とし方針とする所のものに他の万人を適合せしめ得べきや否やと考ふべし。空々たる益もなき空論の本質たゞちに暴露して明白となるべし。

ひとり奇しむ、男子先生。只切りに女學の爲に方針と主義とを立定せんと欲すといふ。何んぞ、其の高慢らしくして而して馬鹿らしきや。吾黨は曰く、女學に別個の主義と方針となし。必らず之ありとせば、只だ**女學的主義方針**と言わんもの、即ち是れのみ。

女學生諸君への小忠告

女學生諸君に對し、些々たる用意に付ての忠告あり。眞に、太はだ些々たる事ながら、大抵忘却せられ易く、其結果は存外の影響を生ずるもの故、敢て之を告げ參らすのみ。

第一、會話の趣味を多方多色にせられたし。今の諸君の談話は、如何にも露骨單調子にして、餘りに殺風景なり。今ま一きわ、餘談餘韻もあるべきに。會話の主旨は、用談のみにあらず、無用の用あり。懇ごろなる交わりと樂しみとは、此處より發す。左りとて、忌々しく世なれたる世辭を可とするにあらざるは申す迄もなし。

第二、手紙の認ため方、今少こし雅致ありたし。多數の女學

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

生の玉章、何と云ふ没趣味のよぞ。書き樣、綴り樣の亂暴狼藉は更にも言はず、余情風雅の趣むき大方乏しく、蠟を嚙み砂を喰らふの議論めきたるよ、ゴツ〳〵として人を苦しむ。昔しは其文をよみて香りの床しかりしものもあり、今は反つて其人に會はざらんとこそ願わるるものあるなれ。

第三、實に小事ながら、敎科書にして用い玉ふ書物などに、小印一ッ押したるなど、何となく風情淺し。同じくは、藏書の印を製して押し玉ふか、左なくば鄭寧に認ため玉へ。書物は敎師なり亦朋友なり、之を愛し之を珍重し之を美くしくするの心得あらまほし。今の諸君は書物を餘りに粗末にして、其情けの太はだ淡き心地せらるる也。

●庚有爲カエ、一見して分つた。どふして主謀者と云ふ者はアンナもので無い。キット誰かに使はれたのだ。主謀者は深く晦まして自からも忘れて居る。それで機會があると、ヂリリとやつて來る。中々あんなものでない。餘程、多く人を手掛けて居るから、天禀の人に會ふと、直にギク〳〵と迫て來て映るものがあるからナ。(海舟餘波の一節)

雜録

同人社小引

吾雜誌の友人には、初號以來引續き愛讀せらるゝ御方多くあり。左なきも十年以上に涉れるもの大率ね半ばを超ゆ。いかに知遇を辱なくするとの切なるやを顧みるたび〳〵密かに感激して胸に張ぎるものあり。之を聞く、諸君の相交はる、往々「女學雜誌愛讀者」の名を以てす。則はち此の名に於て一見舊識の如く投合せらるゝものありなど承はる每に吾人如何にして其の誠愛に酬ゐんかと思ひぬ。このたび此等の緣によりて、勸め玉ふ人の曰く、諸君より屢ば賜はる所の温たかき書信のうち、其の公けにして差支なきものを少しく揭載せずや、左らば讀者互ひに同感同情を重ね、依て以て未見の友を增すの便りにもならんにと。實にや、吾人に寄せ玉ふ御文にして獨り珍藏せんとの太だ慊しきもの多くあり、左れど一々揭げんも亦た何となく惜まれて只其儘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に保存するを例とせしが、こたび思ひ定むるよしのありて以後折々其幾分を割截せばや。然はあれど、其の寄せ玉へる人の御名は惣べて省き、只だ符號の爲め出處の地名をのみ記し置かんなれど、我が讀者は悉皆これ實際に寄送せられしものと信じ玉ふべし。今や、大方の雜誌のつねとして社中私しに假作する向の多くあれど、吾人が此の部門に收むるものは惣べて然あらず。讀者互ひに交情を交え、紙上未見の情を結びて、其の思ひ遣りの一助に爲し玉はんには、吾人の喜悦いかばかりぞや。

○其一

風破窓を射て燈火きえやすく、月疎屋をうかちて夢なりがたき夜すがらも、實に眺めむ人のこゝろ〳〵かや。

あゝ師の君、秋の田の穗波につれて浮き沈む鳥の風情もおもしろし、蘆の葉分けの月の影をも、あはれ面白の景色とこそは、見そなはせ玉へ。

さても不思議なる事のはべるものかと、幾度となくくり返へし候ては、無限の感にうたれ候は「さすらへる犬」てふ事の雜誌に見え候十日ばかり前にて候ひき。あまり頭の重もければとて、野路のそゞろあるきの歸へるさ、草深き中を流るゝ小川の岸に、小犬のなきしきる聲きこえ候故、怪しみて近づき候へば、こは如何に、生まれしまゝなる小犬の四ツも五ツも水に投げ入れられて死し居り候。かたへに、あはれ黑き一疋の、からくも生き殘りて、妾に助けを求むるかの如く、哀れなる聲してなき居り候はんとは。飼主のもらひ手のなきまゝ、困じ果てゝかく情けなき行ひのやむなきに出つるとは申せ、あまりの事に生き殘りたる一疋をそとかたへの芋の葉取りてつゝむやうに抱きかへりて飼ひ置き候に、今ははやこえふとりて、妾を朝夕の送り迎ひに、しつこきまでにつきまとひ居り申候。されど妾は先きのさすらへる犬を讀み候毎に心ひそかに泣き候のみ。(甲州)。

○其二

毎年晩春より初夏にかけては殊に小弟の心地惱ましき時節にて、平素不健全なる思想の愈々不健全に相成り、此頃は常に友人等の豐なる心情に比しては殆ど我心の死する者なるを感じ、世と我との間には、渡り難き深淵ある樣の思致し、寂寥の念に不堪事有之候。現今吾學校生徒に聖書を教へ居り候につけても、特に我感情の普通の人殊に若き人々に害なきかと感居。今日迄何故か幾人の友の情事に關して相談を受け、共間に少しく奔走致せし際にも、深く弟の情の不自然にして、友等の如く美しく發達し居らざるを迷惑に思ひ候。弟にも女性を愛する眞情もあり、嘗ては狂に近しと迄いはれし情契もありし身の、今は怪しきまでに冷かになりて、友等の如きうるはしき心なく、時には弟も彼等の如くに愛するを得ばなど思ふとさへ有之候。嗚呼胸には常に醫しがたき渴望ありて、愛したく愛したくまた慕はれもしたく思へど、終に其心にならず、日に〳〵人情に遠ざかるにあらずやと、心苦しく思居り候。あゝ他の青年は、愛に狂奔して身をなやます者多く、思に胸を焦して苦みもし樂しみもするに、予は却て愛する能はざるを悲しむとは。一昨日は午後より共勵會の準備にとて女學校樓上の粧飾に參り居り候處、仝じ會の餘興の爲め、琴と風琴との合奏せむとて、其下稽古を始めぬ。曲は六段なるに、かなづる小女の一人は哀の身の上にて、唯一人の許嫁の愛人を兄とも夫とも賴みて互に慰め慰めらるる仲とか。時は夕も過ぎし跡の淸く靜なる夕暮、優しく雅びたる調のなにとなくうちしめりて、身にしみ〳〵と感せられしより、予が胸の悲しみ、新に喚び覺されて、此日會を終りし後ちも、唯うらさびしく、跡仕まひに勞れし身の、獨りて寢ねしも眠り得でありし時、一人の友訪ひ來りて、その悲しき過方を語り、共に淚に咽び申候。其折にも、偕に同じ樣なる情の不滿を持するを語り、其癒し難きを悲しみ候。されども其友さへなほ弟に勝さりて幾許かの望みあり、弟は友の去りし後も眠り兼ねて、暫時忘れ居りし我幼時よりの境遇を思ひ起して、押へ難き悲みに惱み申候。顧みれば、暗く濕りたる一世、是といひて樂しかりし事もなく、僅かに抱きし望みも失せて、唯病勝の身に長き深き憂ひのみ殘りて、理性の教へにもかゝはらず、世は砂漠の心地のみ致し候。されば、時に心にもなき覺悟ありといへど、弟は迷の中の迷に陷りて出る能はず、胸中の感情を言まゝにいひ現はせず、却て悟れる者とせらる。是が爲めになほ一層の寂しさを感じ居り候。斯る有樣に候へば、なるべく教會に在りて、種々人世の活劇に觸れ、先輩諸士の誘導を仰がば、或は幾分か此境界より出るを得て、人間らしき人間とも相成べくと被存候。如何に候哉御指示を祷り候(京都)

悲哀の人を慰むる辭

岩野泡鳴

あはれ、わが世に空蝉の
はかなき戀を珍らしみ、
遠く見え透く青雲の
あらぬ望をたのみつゝ、
空しく抱くあら玉の
年に誇りし人々よ。
あしたの野邊にむら鳥の
飛び立つ跡を踏み迷ひ、
夕べの空に星影の
きらめく見ては足惑ひ、
歎きて向ふます鏡に
のぞみを絶

その日〳〵の刻まるゝ
刹那を忘れ狂へども、
春の花かげおぼろげに
なが組み立つる哲學は、
無心に浮ぶ夏雲の
峯と碎けて消え失せつ。
秋の草葉におく露の
情けを語る友は、又、
楢の林に冬枯の
凩ともろ共遠ざかり。
頭上をめぐる月と日の
ちまたに立ちてうそぶけば、
おのがよろこぶ說さへも
既にあらたのものならず、
むかし戀せし乙女子も
之に謎りてたきしひの

人に嫁ぎて、且は又、
その手にゑめるまな子あり。
ひとりさすらふ「ひむがしの
野にかぎろひの立つ見えて、
かへり見すれば」傾ける
月を悲むこゝろこそ
やがてわが身の上にして、
行ゑ定めぬ雲水の
翁と共に「爐びらきや、
左官」の髪に「老い」を泣き。
遂におのれを燒き太刀の
貴とき時は失せ去りて、
如何に悔ゆとも、玉くしげ
再び矯めんすべなくに、
おのが愚かと世の中を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

歎きて向ふます鏡、
のぞみを盜むまがつみの
死に欺かれざらん爲め、
あゝ、わが友よ、心して
憂ひにふけること勿れ。
生とし生ける萬物に
いかで悲みなかるべき。
かなしみあらば、之が爲め
切り開くべき道ありて、
その高ければ高き徑
踏み破るべき坂多し。
されば、常なきこの世界、
われとま近くまじはりの
刹那刹那を輪に結び、
流轉の鎖つぎ合せ、
之に縋りてたましひの
かたきあし場をよぢ登れ。
狐疑落膽の岩間より
眼下に見えん、海原の
末に廣がるなが思ひ、
かすみ隔てゝ玉の緒の
細くありとも「朝びらき
漕ぎ行く舟の跡」ならで、
沖の潮風潮さゐの
亂れ横ぎる一筋や。
誠ある身の憂き事は、
雲井の如く「夕暮の
鐘にうづ捲くひゞき」あり。
あはれ、わが友、あめ地の
かすむ中より夢さめて。
心の耳を傾けよ。
浮世は假の笠やどり、
小雨ぞ過ぐる音にさへ
合歡木の若葉は破れつゝ、
安きを得ざるもろ人の
こゝろ盡しは、しかすがに、
盡きぬいのちに從ひて
その勢を呼び返し。
窪き場所を大水の
平らかにするその如く、
とこ世の道は報い來て、
宇宙に缺くる所なし。

（をはり）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

勝海舟先生高談

(續海舟餘波。禁轉載)

◉下の關の砲擊の時も、行つて、八ケ月延させてやつた。アノ時は、西京から命じられたのだ、容堂とか、何とか云ふ參與などが居たよ。夫で、長崎へ行つて子。アレは、魯西亞と英吉利と、和蘭の連合サ。和蘭が主で、外は助けたのだ。それで行つて話したのサ『アナタ方は、そう眞向きに怒りなさるけれど、日本人は迚もそう分つたものではありません。此間まで、アナタ方には、カヽトが無いので板をくつつけて歩るいて居るのだと思つて居ました位のものです。元來、分りはしません。ソレニ、長州でも、西京でも、今は騷ぎで、何にしても、どふもなりませんから、モ少こし延しなすつてはだふです。夫で、アナタ方が大砲でも向けて下さると、夫から刺激になつて、極良いです』と云ふと、「成程、そうです乎、夫も尤もだ」と言つて、八ケ月延すとになつた。夫で、「横濱の領事などには、アナタから言つて下さい」と言ふから、歸つて來て、船將たちは承知しましたから』と言ふて、夫で、延ばさせたのだが、夫でもグツ〳〵して居たものだから、あゝなつた。　手當かエ、夫はキマリがあるものだから、タシカ五百兩くれたよ。

◉其時などは、モウ軍艦奉行だから、トモを連れたり、駕をつらせて行つたが、いつでも駕は空にして、サキにやり、あとから士一人と徒歩で行つた。皆な、アキかごに向つて敬禮をするのサ「勝はいつ迄も、あゝ磊落では困る」と言つて、夫斗り攻擊して居た。夫で、攻擊のホコ先が、すんで仕舞つた、夫で逃れたのサ。

○所云ゆる缺陷をつくるのですナ。

◉功成名遂身退とは、古人の言ふとだが、それは八釜しいもので、人の功をそねむものだから子。何でも、誰が仕たのか分らないよふにして、人が言へば、とぼけて仕舞ふのサ。

○幕府の目付役と云ふものは、實際、効がありました乎

◉皆ナ、方正のものを撰んだから、中々嚴重だつた。

○賄賂を取るともありました乎。

◉夫は、無つた。外の役人でも、そうだ。取る〳〵と云ふが、よく調べて見た所が案外だ。皆な、留守居が、金を餘計に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遣ふから、さう書出したものだ。ホントには、さう取つたもので無い。大名からは、勿論、役のきまりの樣にして、取つたものだ。

◉水野越前の時は、水野が獨り心配して急に準備したが、此時草薙で其急を知つたものは、サスがは高島四郎太夫と、高野長英と、渡邊登だが、捕まへられて仕舞つた。之は後の時世になれば、ミナ賞められるものだ。

〇近頃は勞働問題で、職工の同盟罷工の事ばかり言つて居ます。

◉夫は、價をあげてやれば善いのサ。上てやると、雇ひ手が無くなるから、仲間から、くづれて來るのだ。

◉藝者もそふ云ふとだそうだから、矢張り、線香をあげてやつたら善いだらふと、人に言つて置いた。

◉己は飛乘が好きで乘るが、新橋迄七八錢、あちらからは十錢だ。法外な事は言はぬよ。三錢もましてやると、ひどくお禮を云ふよ。

罰を熱海の さまよい日記（其三）

惡魔の子　有美

翌る日其家の前を通れば、雨の降りこむを怖れてか、坐敷の戸一面に閉ぢて、たゞ、人のけはひのみかは鼠のけはひさへ見えず、『疊建具附賣貸家』と『八』の字形に張札したきほどの趣なるに、今は宿屋の女房、しかつめらしく手を揉みながら、我に宿り求められしをさも迷惑さうに『暑中滯在客の多ければ、空間のなし』と辭み返せるぞこよなふ面にくけれ。こは我が姿の怪しきに因みてなるべし。之れに二の言葉も出でず、其處より暫し後返りて半町が程歩めば、前に藤棚控へ可なりの門構へして二階造りなるがあり。『富士見屋』といふ。少し宿錢の嵩みそうにも覺えたれど、どッかに一ト盛り過ぎせし如く寂びれたる景色の見えければ、さしたることもなかるべしと、敷居跨ぎつ。この時まで店頭は斑犬の寢ころむ邊りに、南柯の夢温かなりし一人の老婦、俄に我が足音に驚きて起きあがれるも、又我が姿の怪しきに二度吃驚してか、しばし眼の邊パチつかせて、何の挨拶さへせず、かの海

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

路遙けきリリピットの島に、ガリヴアーといふ物好き男の旅しける時、その島の小人ども此る大入道の珍らしさに、そちこちより集り來りて、穴の穿くほど打ちながめしてふ空話にも似て、此老婦、けげんな顔に我れを頭の端より足のつま尖まで、幾度となく見上げつ見下げつ『今朝は何處よりぞ』と問ふゆゑ、『そゞろ遊びのため滊車にて横濱より』といへば、『そんなら、まア御宿りなせへ』と、少しもぢらば、音羽屋張りなどいはれぬべし。草鞋解きて『二番』と札うつたる坐敷に入るに、袂時計は當に三時なりけり。

宿錢は三飯にて四拾五錢と極りつ。まづ何よりさきと硯箱持ち來らせ、原稿紙のべて彼の『鬼面百相の辨』に筆すべらせ、十一時が頃漸く床につきぬ。こは八月卅日の夜なりし。

翌れば疑もなく卅一日なり。『秋田魁新報』のために『美人共進會』などいふ『義人』ともに叱られそうなもの草し居れば、午後も稍々遲くなれる頃、ヂヤラン〳〵と嚴めしき響きさせつゝ、我が隣なる八疊の間に、元氣よく乘り込み來れる一ト群れあり。先にたてるは正裝の警部にて、之れに續ける紳士の面々各々手に〳〵當世流行のポートフオリオといふもの抱へ、小奇麗なる背廣の洋服着流せるなど、さては、かの地方巡回の赤痢病豫防委員とぞいふものにやあらん。襖越しとて確かにそれとわからねど、皆な〳〵浴衣に脱ぎ更へて、足ゆるやかにのたばりかへりつゝも、四方八方の話に人相くずす物音、あり〳〵と我が耳にも聽えつ。總勢四人中の牛耳を取り、しかも其うちの談論家なるは、正しく薩摩訛のかの警部先生なり。

話柄は別に新らしきものにもあらで頗る平凡ともいふべく、かの東京の車夫が、増し賃ゆする惡癖あることなり。されど、警部先生の物語りこそ仲々に常ならず、我れ、隣りにもの書きながら、思はずウ『フ……フ……アハ……ハ……』と高聲あげて、噴き出せるほどなるも面白からずや。今や、四人のものども、誰れ彼れとなく其非禮をつぶやき、口々に罵り出せば、流石は職掌柄のこととて『暫く』とグツト氣取りもせざるべけれど、『之を防ぐの術素より易々たるのみ』と、聲高めに說き始めしは、かの多辨なる警部先生なり。もし倘ほ道の遠きに、しばし走ることをやめて、いつもの猾手段にぐづつきながら、『賃増してよ』と無理乞ひせられなば『なアーに・・

……其時こそは別に何の澁顔も見せで、「よし〳〵」と輕く車の上から返事をして頷くんだ。それから何んでも交番の前を通ふッたら、誰でもかまはず、巡査の立つてる方に向ひて『イヤ失敬』と帽子を取つて聲をかけるんだ。向ふの巡査だからッて、車の上の人だから、よく解らない……誰か知人だらふと思つて擧手をすらア。そうすると車夫め、警察に緣のある人だと思ふから、あつちに着ひても默ッてしまふ』と。茲に我が笑聲の聽えければ、これは意外の喝采なりよと悅びてか、警部先生益々得意げに繰り返へしていふ『交番の前を通ふッたら「イヤ失敬」と、聲かけるんだ』と。術策はまだ之れにては盡きじ。『また始終鉛筆と手帳を懷にして歩くんだ。ゆすッたら、矢張り車の上から輕く「よし〳〵」といふて置いて、それから先方に着いて下車りたら、直ぐ手帳と鉛筆を出して、貴樣は一躰何處だといふんだ……』、彼れ車夫、これは探偵なるべしと大に怖ぢ恐れて、遂に强請るとなきに至るべしと。茲に話は掬摸のことに一轉せり。『もし女の髮のものなどすらんとする時、其もの、若し左の方にあらば、まづ一寸指にて何もなき右の方をば輕く衝くなり。然らば女は直ぐ手をその衝かれしあたりに擧げん、凡て女と云ふは誰れ彼れとなく皆な髮のまはりを氣にすること怪しくも機敏なるものぞ。見ずや、かの一陣の凉風サと吹き來りて、髮の毛唯一筋亂せしのみなるにさへ、しばしの猶豫なく取り繕ふを』と。是に至りて我れ『七ッ道具』の記者も、警部先生が烱眼精察なるに驚かされて、稍々ひるめる色起しつ『かゝれば左の方には、自然に隙の出來て、こゝに其髮具を拔くの餘地浮び出るなり』。記臆すべき話は、遂に終れり。

この地にむけて横濱たちし日よりの雨は、九月の一日二日三日と經ぬれども、仲々に霽れ上らず、濛々として海面を閉ざし、又我が心をも閉して、新らしき思想を惠むにもあらず、されぱとて、悲痛淋漓、滂沱たる涙に我が腸ちぎらしむるにも非ず、其腸の心地よからぬは、例の過食不消化のためなり、たゞくすぶりかへりて一室に籠り、折々かの美術書など繙くのみ。原稿書き、や洋書の三四頁繙がへすこと、もしこの湘南行の目的ならば、敢て大枚七十錢の旅費と日々四拾五錢の宿賃とを捨てはる〳〵此地に遊び來るの要もなかるべし。これ巢鴨の村舍に寢返りして、なほ爲し得べきのとなり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎日本貴婦人の洋装

有美

下じもの女ども、若し洋服つけたればとて、自ら手近かの裁縫師に足運ばせ、我が身にふさはしき柄摸様と體裁とを撰むべければ、さして可笑しきこともなかんめれど、噴飯に堪え難きは、我邦貴婦人の洋装とぞいふものなる。過る日或る公會の席上に、さる齢未だ妙春を越えざるやんごとなき貴婦人二人まで拜せしが、その洋装の不釣合なること天下無類にて、なほ暹羅の土人が、跣足ながらも胸に秋時計の金鎖閃かすに似たり。こはたゞ巴里あたりの新流行を追ふにのみ専心して、汲々及ばざるを恐れ、それがしの形いま佛京の流行なりと聞けば、果して其新形の我が身に似合はしきや否やをも調べず、この地の裁縫師には唯寸法のみ測らしめて、先づこれを彼の地に送り、早速の注文をなすより、此る不釣合なるものゝ出來とはなるなり。これを貴婦人の洋装が、沐猴にして冠する如き觀ある所因となす。かの身丈け高く皮膚白皙に眸子碧さし、萬事華奢にしてあでやかなる彼の地の流行の、丈け短くして色薄黒く總てしめやかなる我が婦人に、そのまゝ適ふべきの所依なし。我が邦の貴婦人たち、宜しくこの因縁に鑑みて、たゞ其服装絶對の美にのみ魂奪はれ給ふことなく、よく我が身と對照審美し、後之を装はるべきなり。然らずんば、日本貴婦人の洋装は、暹羅人の金鎖と共に世界億兆の物笑ひたるに至らん。

◎腰ふりの流行と袴に靴

同

近頃、女學生の「歩きつき」に、可笑しき奇妙の流行あり。少しく氣取れる輩は、皆な之れを學ぶが如し。そは、一歩、足運ばす毎に、リズム的に腰を上下にふり動かすことなり。之れをリズム的なりといへば、頗る美はしきに似たれど、全くかの西洋婦人が、袴の美を増さんとして此る歩みつきするを、その儘直譯せるに止まれば、觀るもの却て小面にくき思ひす。洋婦人の裳の如く、襞群りて曲線多き服装には、此る美術的の歩行もよかむめれど、我が邦婦人服の如く、曲線少なく元來美術的ならざるものに、此るリズム的の美術歩行は、却て見苦るしけれ◎また近頃の大流行は、女學生の袴なり。こは輕快にして美はしく、洋に欠けたるを補ひ和の足らざるを助け、頗る好ましき流行なれども、釣合はぬはかの重たげなる履きものにぞある。折角海老茶の袴に、身輕く見えし姿も、一ト足謬らば、直に倒れなんとすなる、無類の殺風景の二本歯『ポク〱』下駄などいふものひつかけらるれば、恰も風船玉の下に平家の知盛沈めし大錨つなぎし如くに思はるれ。さればとてチヤラ〱せる雪駄、麻裏、板裏などいふ草履も、又仲々に殺風景にて埃さへ多くたち上り、好ましきかたには非ず。袴に適へる履物は洋靴の外、又あるべからず。これのみ美はしく能く似合へりと我れは云ふ。

◎東京座慈善演劇

有美

こは、伊藤爲吉氏が職工學校のために開かれたるものなり。一座は日頃興行の大坂青年俳優實川延二郎の一團に、女優市川九米八を加へたるものなり。大坂方の出しものなる壹番目狂言『南總里見八犬傳』四幕は、共によく〱間の抜けたる芝居にて、役者も舞臺も、其間抜けさ加減、殆んど言語に絶し、もし我れをして酷評せしめば、こは淺草奥山に、玉乘か都踊の所作事觀る如しといはん。その隙の多しき、素よりいふまでもなし◎座頭は無論延二郎なるべけれど、藝術にありては、中村雀三郎却て一頭地をこれに抜くものゝ如く、その『犬川莊助』が『小者額藏』の扮りして、暗中に刀閃かしつゝ、敵を探る段など、誠に以て旨きものなり。でくの棒の延二郎など到底及ぶべふも非ず◎世には蓼食ふ虫も好きずきとのことあればにや、仙之助といふ役者、何處までも彼の厭味たツぷりの家橘其儘を受け寶り丸る出しして、盲の見物相手に喝采を博ふし居ること、こよなき不思議なり。さても、これが當世の好みといふものにや◎九女八の出しものなる二番目狂言『嫩源氏陸奥日記』と大切『蜘糸宿直噺』との二幕は實以て流石にて、この二幕とへ見れば、九女八の技倆大低これまではやれると見物は納得し得べく、且つはその多面なるを誇らんとてか、二番目にては、先づ『伊勢三郎の妻』なるレデイーとなり、早替りにて『伊勢の三郎義盛』なる古武士を勤め、大切にては、まづ傾城葛城太夫となりて艶なるを見せ、早替りにて『座頭の坊多市』となりて踊るなど、男女兩性が正則變則の兩面を演ずるなり。げに女團洲の名に反かずとぞ覺ゆる◎又東京座は其建築頗る不完全にて、音響の反響充分ならず、平土間の前部にありてさへ、臺詞の明瞭を欠くこと多きは、上なきの欠點なり◎越えて二日、歌舞技坐に團菊一坐を觀る。かの『太郎左衛門』が手慄えて、握れる御告文の紙動かせし響さへ、遙るか奥の『竹の側』まで能く聽かれて。この劇場の建築巧みなるに驚きしが、更に驚きしは團十郎なる齋藤太郎左衛門時行が、幕切れに放てる『馬引けーッ』のかけ聲なり。是に至り我れ益々團十郎の當代一箇の英傑なるを知れり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

隨感

○秋夜讀書

四時常なし、わが心さへも常なし。いつを何とて定まりたるらしく言ふべき折のあるべきやは。左れど、春の宵の艶やかに、夏の夕のにぎやかなるに似もせで、大方、秋の夜ばかり清く靜かなるは稀なり。凉澄、沈深の氣、室內に滿ちて、燈火の光、一入ほ清明なり。愛兒傍らに眠り、膝前、一卓を置く。獨り靜かに書を開きてつく〴〵と見つつあれば、靈眼自から霧を拂つて、燈火まぢろがず、心光彌よ明を加へて、天地沈靜す。秋の夜の讀書ばかり心落着くものはあらじ。今夜就中、書に耽りて、特に寄贈ありし三の書を開けば、隨がつて感ずる所、三種三樣なり。

○自恃言行錄

自恃庵高橋健三君の言行錄なり。傳は、內藤湖南君筆す、敬意、情思並び至り、血淚同もに下る。此人にして、彼人を傳し、此筆にして彼言行を錄す、眞に當を得たり。而して、故舊親友交も懷舊の情を傾盡し、四十有七士の文眞贊ならざるなし。中に就て、尤とも切に、我心を打しものは神鞭知常氏の談話筆記なりとす。云く、

高橋が內閣書記官長となつて始めて官舍に移つた時、玄關前の向ふに二三百坪餘りの明地があつた。種々の野菜類を作つてあつた。それは構の外で、訪問者などに見える所でなかつたけれども、高橋は直ちに其野菜を引拔かせて、種々の花を植させた。其意思、花を樂しむと云ふよりは、寧ろ家內の者をして卑吝の念を生ぜしめないやうにしたものと察せられた。

高橋は漢學洋學を能く嚙碎いた日本魂の侍であつた。それからして利害より割出して議論を立てる人を見ることは頗ぶる嫌ひであつた。時に或は酷評に過ぎはせぬかと思ふこともあつたが、能く考へると云ふと、さう思ふたのは常に僕が情に流るる弊であつて、高橋の方が正しいのであると云ふことを常に感服した。それで、一二の例を擧げれば、僕が伊藤を評して、短所の話は無論澤山したが、彼は自身に金錢を貪らぬだけが妙だと云つた。高橋之を難じて曰く、君等がこちらでさう云ふことを云ふからして、世間の人が善惡の差別が分らなくなる。伊藤が費消する費用と云ふものは、大隈伯の如く大名的ではない。併しながら、私ひに淫猥の爲に使ふ金と云ふものは莫大である、是は何處から得るか。他の人の如く、或は相場をしたとか、或は賄賂を取つたとか云ふことは見えぬ代りに、之を世間に見えない筋から得て居るに相違ない。さうでなければ、公然得る丈のものでは、あれが出來やう筈がないのである。それのみならず、自分が假令ひ不倫な且つ腐敗したことを目に立たぬやうにして居るにせよ、自分の幕下に不倫腐敗の擧をさせて、夫を制さない以上は、あの位置と名前とに對して、決して赦すべからざることである。恰かも我子分に賊を働かせて、さふし

て已は盗をしないぞと言つて居ると同じとである。世間の滔々たるものは、是は仕方がないが、君等がこちらから、さう云ふとを云つて呉てはならぬと云つた時の如きは、實に熱心なものであつた。今に僕の耳に殘つて居る。

噫、自恃庵本來の面目、此の二個の逸話に於て躍然飛動するの心地せらる。

○自由傳道來歷一斑

近江水口の牧士村田平三郎君、右題號の一書を恵送せられたり。氏は未見の人なり。而して、僅々十三葉の小册子、固より今の讀書界に於て大いに注目せらるべきものにはあらざらんが、余に於て近時絶無の感激を與え、胸熱し、心躍り、眞に欣喜感謝の情止みがたきものありたり。抑そも、自由傳道とは何事ぞ。村田君、幾年聖職を濆がして功の成りがたきに痛み、傳道界日々荒廢に歸して悪草ひとり蔓延するに泣き、「必竟傳道方法に活力なきの致す所なれば、茲に是非とも必要なるは精神的活動力にして、一呼万骨を躍らしむる大能力を得るの途を講ぜずんばある可からず。山究まれば水生ず。人事前に盡れば天理後へに應ず」と信じ、

一日折を得たれば兄姉等に懇談し、傳道振起の一策として暫く傳道に關する全權を余に一任あらんとを請求せしに、兄姉等は全く之を諾せられたり。仍て余が此全權を兄姉等に請求せし所以のものは他なし、必竟從來の傳道方法をして咄嗟の間に根本的大改革を試んが爲のみ。既に確信する所なり、又全權を一任せられて、成敗の責任殆んど余一人に歸し來る。余が一劃一策は愈よ至誠ならざる可らず。余や誠に不肖固より此器にあらざるも、勢ひ已に大河を背後に陳取ぜる軍隊の如く、進むも死、退も亦死ある而已。今や器品を論ずる秋ならず、エホバ神の命令は唯だ直進せよと聞ゆ。然れども余は屢ば右往左往躊躇逡巡せり、而て後、余は漸くに止むを得ざるが如くに、エホバ神の命令に從ひて歩一歩と前進せり。然るに不思議なるかな、決心は決心を呼起し、覺悟は又覺悟を固くし、熱精は熱精を產み、余が心情は殊に一變して恍惚となり、靈眼忽ち開けて前に靈湖の洋々たるあり、後へには靈泉の淡々たるあるを觀る。時に又聲ありて切に聞ゆ、汝飽まで掬し飽まで息ふべしと。余や思はず掬し思はず一息せしに、靈眼愈よ明らかにして、未だ曾て觀ざりし處のものを觀る事を得て、恰かも彼のペテロの所云、主よ我儕こゝに居は善、もし尊旨に適はゞ我儕に三の廬を建させ玉ふ、一は主の爲、一はモーセの爲、一はエリヤの爲にせんとの消息に似て、余は實に消極的となり、隱遁主義となりて曰く、オー神よ我こゝに居はよし、又此靈境を去つて、訪問や、說教や、祈禱會や、親睦會等に行く事は欲せじと。然るに神は余の願ひを許し給はず、反つて大なる働を爲すべく一の使命を賜はれり。余や辭するに言なく、復た止を得ざるが如くに、彼靈境を出にけり。

而して後靜かに思ひ廻らすに、抑も傳道の事たる、固これ神業たり、一宗一派に拘泥し、一町一郡に跼蹐たる可らず、宜しく諸宗を友になし、大日本を教化するの抱負なかる可らず、又傳道者は天神に代りて其福音を宣傳するものなれば、些々たる情實、積弊に纏綿せられて、因循姑息なる可らず、宜しく不羈獨立の識見を振つて以て其職責を盡さゞる可らずと。茲に於て余は斷乎として万障を打破し、人の事を顧みず、唯天父にのみ事ふるの立脚地に立ち、漸やく新傳道方法劃策に着手するに至れり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

氏は、斯して「自由傳道」と稱するものに着手したり。其の主義、方針、目的等に云く、

主義　互に愛を負ふの外、又何物をも人に負ふ事なく、又人にも負はしめず、悠々自適して、福音の靈火を人心に投入するにあり。

方針　全く教育事業以外にありて、專ら個人的に、悔改、信仰、大懺悔、大感謝、愛神、愛人等の道を自得せしむるにあり。

目的　大救主基督の教示の如く、爾名を尊崇させ、爾國を臨らせ、爾旨の天に成る如く地にもなさんことを期するにあり。

體度　基督教各派諸教會は、神の光榮を顯す爲に、設けられたるものなれは何れも皆な神聖なるものと尊信し、我自由傳道は全く之か前驅者、即ち野に呼へる人の聲たらんとを任ずるにあり。

場所　近江國甲賀郡水口町を起點となし、悠々自適して際涯なかるへし。

資源　懼るゝ勿れ、唯た信ぜよとのこと之れ也。

前途　患難なる乎、或は困みか、迫害か、饑飢か、裸程か、危險か、刀劍なるか、將又成功か、之を知るものは唯夫れ神あるのみ。

責任　我神エホバ即ち天の父に在り、如何となれは、我何事をも自ら行ふ事能はず、唯た聞處に遵ふて行ふのみなればなり。

看よ、其の決心の如何に堅くして、其練達の如何に超凡なるかを。余は、感謝し且つ祈禱す。

○護國經

（右三輪信次郎氏著、其の評、餘白なきに付次にゆづる）

寄書

强盜窃盜火附の王子

原胤昭

題字、何人も一讀以て喫驚せん、此の毒卵を破碎して良人民を造る、抑も此快事何人の手にかありとなす、孤兒育養者石井十次君の掌中に、あゝ吾人何んぞ岡山孤兒院に同情を寄せざるを得ん是れ實に區々一小慈善に非ず眞に社會公益上偉大の救拯事業なれはなり、

一夕予か玄關に車輪の響は止みぬ一童子、麥わら帽を横たへに冠り片手に小さき風呂敷包を提け、岡山孤兒院行と筆太に書き記したる七八寸長の木札をへこ帶に結ひ下げ、漫然として予か部屋に入り來り机邊にトッカと坐し兩の足を投出し徐ろに懷中を探り蟇口を開き錢を散出し若干錢を算へて立てり、敢て問ふ、どこに往くか、

車屋にやるんダンベイ　一貫五百ダンベイ

此時予か妻は既に上野停車場より送り來りし車夫に車代を拂ひ鐵道會社へ孤兒一人受取申候途中御手數奉謝候との人間一人の受取書まて渡し了りし時なれは、宜し、車の代はモウ遣た、マアごふして來た、途中て困りはせなんたか、寒くは無いか、ひもじくは、ト丶四方八方の話に入りしか、予は彼れか餘り穎敏に錢勘定をせしを不審に思ひたれは種々の小貨幣を取出し算せしむるに一文より百文一貫十貫何兩と舊貨名を以て算し毫も誤なし併し廿錢も五十錢も一兩ダンベイ、札はこれも一兩ダンベイで一向に知らざりき、此の穎敏なる算數をなせる童子の齡僅に六才、其才其智以て知るへし、彼は日へり

おらあ會津の喜多方から來たのよアノなあおぢさんか馬車に乘せてくれて滊車できた東京の原さん所ダンベイおらあ岡山に往くんダンベイ白川の留さんは往

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

くなつておこつたけれどおらあが稚くつて泣いてやつたものだから往つてしまへと云つて出したのよ

おまへのおさつさんやおつかさんは

　おらあおつかあはおらがこめへときにあれつこつれてにげて往つてしまつたなおらあおさつさんはこれ（紅葉の手もて博奕椀ふせの形容を示し）をやつたり、紙で風車をこしらへたりしてゐたが去年はやりやめへで死んでしまつた、

それからどうしたへ

　おめへ！つてゐべイ白川のとめさんをおらあとめさんの所にゐたのよとめさんはおらあおさつさんのなかまよ

彼は喜多方の志士井上兒によりて救はれ同町有志の寄附金二圓を旅費として岡山孤兒院に送さて予か許に送られし孤兒なり夫より予は誰か相應の同行者を得んものと予か家宅に止め置けり一夕彼れは曰く

　おばさんしやつさ往ふか一緒に往くべイ

妻は此の勸誘の意を解せず推問す

　しやつさ出てみろすぐに此の位（指を開き五を示す即ち五錢）は直くにまうかるぜこんなに家があるもの

於爰妻は始て彼兒によりて乞食の誘引を受けたるとを理解し可笑くも其裏情に心を動かし且つ教へ且つ戒めしか又或午后に

　おはさんおらあだんごが喰いたくなつたおはさん一緒にしやつさ往けひらつてくんべイ

妻は又此の勸誘を解せず、再問す、

　たんとあるよ今日はひかんダスベイあのなあ墓場に往くと白れへだんごがあるよ早くひろひに往くべイ、うめへよ

妻は解し得たり、彼れか地方人の彼岸詣に墓場に手向に白團子を拾ひ喰はんとの勸誘なるとを、其か哀憐に心も沈み鳴咽の涙を拭ひツヽお團子が喰ひたくば今に饅や梅（家兒）が學校より歸りなは買ふて喰へさせ得させん、拾ひに往ふなぞとな云ふまいよと教へもし諭しもせしか其悲哀の眞情は亦彼の解する所とならず寧ろ誤解してか

　いたましいな〱

妻は又解し得ず何事ぞと相問ふに

　それでもおばさんひろひに早く往かないとからすがみんなとつて往てしまうよいたましいなあ〱

可笑くも憐むべき兒童の心意、

　おばさん錢こ貰ふにはこふだぜこヽに（膝）わらずをつけ四つ這ひになり、おだんな樣やおかみ樣や難儀な片輪に一文やつてくんさいと云ふに後について行くのだ錢こ吳れたら直くに立ちて元の居所に歸つて居るのだヨ

笑ふべきか否な恐るべし此の幼兒は巧に詐僞騙取の術を知れり此兒此儘に成長する如何なる人にかならん詐僞竊盜の外なかるべし、問ふ每日幾ら貰ふのだ

　每日二貫持つて歸らなければ留さんにこれ（げんこ）をくらされるそうでないとこれだ（兩の米かみを拳にて締める俗に梅干といふ痛め方）いたいよ二〆持て歸れば五百くれるよけれどこれ（指を曲けて竊盜と云ふとを示す）をやつてはいけねへのよ、

譎詐を以て乞食をなさしめらるヽ可憐兒、爲す無くば竊盜の外あらぬべし其智其才皆な此の類のみ彼は紅葉の手以てあらゆる賭博花札の術を演し且つ說明して其長技を示せり彼の成長豈に正業の民となるを得んや

或事の彼の意向を滿たさるありし時、彼は曰く

　そんならおらあ泣いてやらあ

泣たとて仕方はない矢張先のお家では構うまいよ

　そんならおらあこうしてやるよしやつさヾチを持て往て隣の方でプツとすりつけるよプツト火事になればなあ

六才の幼兒、まさか放火の現行犯にも非ざるべけれど予が家兒らの事を見れは豫想にだも無き脅迫手段、果せる哉彼の乞食の頭、盜人の首、白川留猴の教育ならん、世に放火子僻の追立ち來るも所以ある事にこそ、此の可憐なる一孤兒此の教育、此の境遇によりて成長するの強盜竊盜火附となるの外あらず、今にして此の殼卵を破り救拯して良民となす井上君の慈、石井君の善、共に社會公益を利する大且重と云ふも誰か過ぎと云ふを得んや

時報

○栃木縣遊廓增設令反對運動

栃木縣知事が遊廓增設令を發布したる事は豫て報道したる所なるが其後縣下各地に於て之に反對の運動起り各町村相呼應して縣令第六十號の排斥を期する者甚多し今回足利郡の縣會議員郡會議員町村長町村會議員及其他の有志百六十名より內務大臣及栃木縣知事に提出せる請願書は左の如し

栃木縣令第六十號取消訓令願

某等謹テ書ヲ內務大臣侯爵西鄕從道殿閣下ニ奉ス我栃木縣知事溝部惟幾氏ハ九月十五日縣令第六十號ヲ以テ遊廓設置規程ヲ發布シ從來ノ旣設地十六ケ所ノ外新タニ九ケ所ノ開設ヲ命令シタリ是レ明カニ風紀ヲ紊リ公德ヲ害スルノ基因ヲ增加スル所以ナルヲ以テ速ニ該縣令取消ノ訓令ヲ發セラレンヿヲ悃請セントス

夫レ公娼ハ古來一種ノ變習ニシテ天理ニ背キ人道ニ悖リ國躰ヲ辱カシメ家庭ヲ擾リ風紀ヲ亂シ廉恥ヲ喪ヒ元氣ヲ耗ラシ遂ニ產業ヲ破壞スルニ至ルモノナレハ文明社會ニ於テ一日モ其存在ヲ許スヘカラサル所ナリ

我政府ハ從來公娼漸滅ノ方針ヲ採リ新ニ妓樓ノ開業ヲ僅カニ世襲營業者ニノミ其餘命ヲ保タシメタリキ然カモ其流毒猶甚シク眞民剛健ノ氣風ヲ傷ルヲ以テ昨年栃木縣會ハ此種ノ營業者ヲ一所ニ封鎖シテ其淫風ノ蔓延ヲ防カンコトヲ建議セリ然ルニ何事ゾ栃木縣知事ハ敢テ積年減娼ノ國是ヲ無視シ縣會議決ノ精神ニ反シ縣民ノ輿論ヲ顧ミス却テ前記ノ縣令ヲ發シ古來未タ曾テ其清潔ヲ汚サレサルノ地ニ於テ新ニ淫猥ノ府ヲ開キ汚行ノ標本ヲ增殖セントス斯ノ如クンハ其結果縣下ノ子弟ヲ過ラシメ縣下ノ風俗ヲ頽敗セシメントス之レ某等ノ默止スル能ハサル所ナリ仰キ願クハ閣下縣民ノ輿望ニ聽キ速ニ該縣令取消ノ訓令ヲ發セラレンコトヲ某等熱望切請ノ至リニ堪ズ頓首再拜

明治三十二年十月

栃木縣足利郡有志百六十名　連署

內務大臣侯爵西鄕從道殿閣下

栃木縣知事に宛てたる請願書も略ぼ同文なれば省く。

○窒素的切支丹

正氣ならざる　有美

ソドム、ゴモラの地、若し五人の義人あらば、能く亡ぼさるゝことなかりしと。今や我邦は餘りに多きまでの義人あり。上正統派基督教會の牧師記者より、下田舍の『獨立雜誌』愛讀者に至るまで、義に勇むもの〻夥しき、到底五六人のみに止らざるべし。然らば　何ぞ亡國の歎を發するの要あらんや。祝すべき哉、我邦は長久へに生くべきものなり。されど、既に忠臣愛國者の多きに持て餘せる日本はこの上正統派基督教徒なるものによりて、所謂『義人』を增すこと數萬なるに至らば、果して如何に成り行くべき。これ憂ふべきことなり。義人の餘り多きは、邦の祝福に非ず。酸素は善きものなり、人命に欠くべからざるものなり。されど空氣の人命に助たるは、寧ろ有害なる窒素の、共に之れと相混和せらるゝがためならずや。純粹なる酸素は、皮膚を爛らし鼻口を傷め、人性を躁狂にし、却て人を害ふものなり。『義人』の餘り多きは窒素なき空氣の如し。正統派基督教會の會員は、此の如く『義人』のかずを殖やして、我國民を『義』に狂はしめんとする乎。是に至りて我れは、我が國民を氣違ひならさらしめ、我が基督教會を正氣のものたらしめんため、窒素的分子の入用なるを見る。嗚呼我れは暫く『義人』たるを辭して、窒素的クリスチヤンとなるべし。これ『義人』の妨げをなさんとするに非ず、『義人』をして能くその働きを全ふせしめんがためなり。又近頃盛なるは僞善者の攻擊となす。正統派の牧師にだんだを踏みて之を攻擊し、『餘り多くの義人』諸位、又口と筆とを揃へて之を攻擊す。されど。我れは[illegible]六塵の塊りにして、六根遂に斷ち難く、到底まことの善人たるの見込なければ、せめては僞善者といふ假りの善人にてもならんかと、心竊に勉めつゝあるものなり。これ又窒素的クリスチヤンの一職分ならずや。東京基督教生同年會の會員中、若し我れと志を同ふするものあらば、共に窒素的クリスチヤンとなりて、『餘り多くの義人』を持てあまさんとする我が邦と我が基督教會との急を救はずや。昔しはルーテルウオームスヽ大會に臨まんとして曰く『假令ウオームスの町の瓦悉く惡魔となりて我れを責むるとも、我は必ず行くべし』と。東京市の瓦、もし悉く天使の顏をなして我れを睨むとも、我れは窒素的クリスチヤンとして遂に行くべし。嗚呼我れ茲に立てり、地よ助け惠ぐめ、アーメン Here I stand. o Earth; help me, Amen!

⊙これ神田靑年會館に開ける東京基督教靑年會秋季大會の席上に、豫れてよりの依賴に應じて我が試みたる五分演說の主意なり。『福音新報』の白井君之を聽いて記して曰く『靑柳猛氏は日頃自ら惡魔の子と稱し居らるゝ山なるが、果して正氣の沙汰なるべきや』と。然り、我れは正氣の沙汰に非ず。されど、世の正統派諸先生の如く、全く『義』に狂へるにも非ず、酒に醉ひ煙草に醉ひ、戀に醉ひ、さては人生に醉ひ狂へるなり。

◉新女學雜誌　下田歌子女史、帝國婦人協會の爲に新に一女學雜誌を起し、大に筆力を振はんさせらるるよし。

◉ツルー女史の傳　故ミセス、ツルーの爲に追悼記傳の著あらんさするるを久しかりしが、田村直臣君脱稿し、近々出版の筈なり

◉成女學校　元第二學校長たり其后東京女學館々長たりし吉村寅太郎氏、今回府下下二番町に於て成女學校を新設す。

◉信濃佐久婦人會　去月廿三日佐久郡役所樓上にて開會、僧侶松山貫道氏演説す。會員中には基督教徒も多し(政教時報)

◉岡本絳雲女史　故岡本英石翁未亡人同女史舊に精し、八十四歲、去十二日永逝。

◉金城婦人會　名古屋に於て、去七日第一會開かる。

◉青森縣高等女學校　來年度、弘前市に於て新設されん計畫なり。

◉工女養成所　信州の諏訪、須坂、松代、伊那等の各所に設けられんさす。

◉日本婦人米國に歸化す　元藝妓たりし原田ミテ、紐育に於て。

◉新潟市婦人教育會　新潟市に於て去十二日開會。

◉山梨婦人會　前號に記したる同會第一回講話會は去八日開かる。

◉愛媛縣師範校女子部　去廿二年一旦廢したるが來年度又再設の計畫。

要目一覽

滋賀縣南野貧民窟の結婚(高木正義)○兒童保護協會	社會(第八號)
獨逸看護婦一斑○英國看護婦談(下田歌子)	日本赤十字(七八號)
帶妻可否論	明教新誌(連載)
女子遊戯法○音樂唱歌教科書一覽	教育實驗界(第七號)
禽獸にも劣れり(十。十二)鉛製おしろいの害(十。十三)身后の工夫如何(十。十四)鉛製白粉を禁ずべし(十。十五)庶子の待遇(十。十七)醜行男子に告ぐ(十。十九)蓄妾男子尚悟らざるか(十。廿)	時事新報
大名の奥向	讀賣新聞(十。十五以下引續)
清門家庭の亂脈	國民新聞(十。十四)
婦人の進歩	信濃毎日新聞(十。十三)
手藝以上の學	報知新聞(九。廿四)
中島湘烟女史談話	秋田魁新聞(十。十六以下七回)
トランスパールの婦人	讀賣新聞(十。十八)
時代料理會	同(十。十一)
補習女學校に就て所感(羽山)	馬關毎日新聞(九。廿五)
出來星奥様	やまと新聞(十。十一)
孝女満佐碑(周防下松驛)	高野教報(第二十四號)
藝娼妓其他の統計	社會(第七號)
日本女性發達史緒言(磯部武者郎)	日本弘道會叢記(八十九號)
瓜生岩子の傳	同前
歐米女權の序(中村正直。)女教誡入花形	同
品川子の家庭に感あり	中央公論(第十四年九號)
高等女學校裁縫教授細目	教育實驗界(第四卷第六號)
病院の天使(ナインテンゲール)	日本赤十字(第七十七號)
英國病院看護婦の生活	同前
音樂會に於ける根本博士	秋田縣教育會雜誌(八十八號)
飛騨白川郷の家族制度	時事新報(十月[illegible])
露帝の御家族	日本(九月廿日以后)
秋田婦人學會を論す	秋田魁新報(九月二十八日)
女流の無學	報知新聞(十月八日)
子女の祝衣と流行の冬着	時事新報(十月八日)
小供を街路に遊ばしむ可らず	同(十月二日)
女子教育の本領を論じて現今の女子教育に及ぶ(藏原惟郭)	教育公報(二二七號)
ジョルジ、ワシントン夫人	世界之日本(第四卷第三四號)
子守教育、裁縫教師に告ぐ	京都府教育雜誌(八十九號)

引續掲載中は(千代田日報の婦人躰育論。同、御殿女中。同、令孃鑑『板倉柄子』『有馬禎子』。報知新聞の夫人の素顔『大隈綾子』『矢島楫子』。時事新聞の男女の學説

東京麻布本村町 學農社（電話新橋千二百廿三番 電報發送畧號「カクノ」）

精選苗木類代價畧表

《詳細定價表は郵券二錢にて呈す》

⦿華果（おほりんご）
紅魁（早） 丹頂（早） 生娘（中） 中成子（中） 大錦（中） 小猩々（晩） 青龍（晩） 赤龍（晩） 倭錦（晩） 松井（晩） 晩紅絞（晩） 柳王（晩） 滿紅（晩） 大猩々（晩） 晩成子（晩）
右十一種一本五錢 十本四十五錢 百本四圓
右四種一本四錢 十本三十五錢 百本三圓

⦿内國梨 一本五錢 十本四十五錢 百本三圓五十錢
⦿西洋梨 一本十錢 十本九十錢 百本七圓
⦿櫻桃（みざくら） 一本七錢 十本六十錢
⦿西洋桃 一本十五錢 十本一圓廿錢
⦿水蜜桃 一本八錢 十本七十五錢 百本六圓
⦿内國桃 一本六錢 十本五十錢 百本四圓五十錢
⦿紅梨 一本八錢 十本七十錢
⦿柿 一本五錢 十本四十五錢 百本三圓五十錢

⦿巴丹杏（たたんきやう） 一本六錢 十本五十錢
⦿末李⦿西瓜李
右 一本六錢 十本五十錢 百本四圓五十錢
⦿西洋葡萄 一本六錢より十五錢
⦿甲州葡萄 一本七錢 十本六十錢 百本五圓
⦿温州蜜柑 一本六錢 十本五十錢 百本四圓五十錢
⦿紀州蜜柑 一本五錢 十本四十五錢 百本四圓
⦿舶來柑橙丸實ワシントンネーヴル
⦿新橋柑橙長實ワシントンネーヴル
右二種共一本廿五錢 十本貳圓 百本拾七圓五十錢
⦿盆栗
⦿丹波栗
一本五錢 十本四十五錢 百本三圓五拾錢
⦿英國胡桃一本廿五錢 拾本二圓
⦿清國大枇杷一本八錢 拾本七十五錢
⦿濟梅 一本五錢 十本四十五錢 百本三圓五十錢
右の外觀賞木、山林用木、籬用樹等澤山準備致居候多少に拘らず御注文の程奉希候

稟告

- 弊社發賣の苗木類は一種特別の仕立方を施したるものに有之其荷造法も多年の經驗により特得の伎倆を有し居候間御安心御購求下され度候
- 出荷期日は十月下旬より相始め申候
- 荷造費は社辨とし一切申受けず候
- 荷物運送の道順荷問屋等は詳細御報知被下度御示し無之分は當地貨物取扱所の見込に任せ可申候尤も途中に於て生じたる延滯及損害等は弊社に於て一切其責に任じ不申候
- 小包郵便にて送り得べき荷物なれば小包取扱郵便局名御明記願上候
- 運賃は苗木代價の二三割申受け置き後にて御精算可申上候
- 郵便爲替は麻布局振宛受取人は東京麻布本村町學農社と御記入被下度候

東京麻布本村町 學農社（「農業雜誌」見本は五錢 農書農具類をも販賣す）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY